

1 学年シラバス 目次

学校シラバス
1 学年 (I コース) シラバス
現代の国語
言語文化
歴史総合
公共
数学 I A
物理基礎
化学基礎
生物基礎
体育
保健
音楽 I
美術 I
書道 I
英語コミュニケーション I
論理・表現 I
総合的な探求の時間

学校シラバス

校訓

- 1 忠恕の心：まごころを持って相手の心をおもいやること。
- 2 自主創造：自主的に学び、考え、広く世界的な視野を持つと共に、新しい自分、心豊かな自分を創造すること。
- 3 真剣力行：強い意志を持ち、目的に向かって全力を尽くすこと。

本年度の努力目標

- 1 奉仕と思いやりの心を持つ
- 2 新校舎を大切に学ぼう
- 3 対策をして楽しもう

取り組み項目	具体的な内容
キャリア教育、教科指導を計画的に推進し、学力の定着と向上を図り、生徒の進路目標を達成する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 シラバスを作成し、生徒・保護者へ提示する。 2 進路ガイダンス等の各種説明会を通じて進路情報を提示し、幅広いキャリアビジョンと確かな学力を身に付けた上で進路を決定する意識を構築する。 3 卒業前の3年生に、学外からの出前講座、教員による校内講座を行い、幅広い教養を身に付ける。 4 日本大学工学部との高大連携事業を展開する。
国際理解教育を推進し、グローバル化社会に対応できる力を身に付ける。	<ol style="list-style-type: none"> 1 ネイティブ教員によるTT授業で、英語の4技能の育成を図る。 2 課外講座で、英会話講座を実施して語学力の育成を図る。 3 語学力育成とともに国際理解を深めることを目的に、ケンブリッジ大学・オーストラリア海外語学研修を実施する。(令和4年度は派遣中止)
自主的・主体的な学習への取り組みを通して、社会に貢献できる人材を育成する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 自学室・自習室・サポート室を活用し、生徒が自ら学ぶ姿勢を育成する。 2 ICTを利用したアクティブ・ラーニング授業を実践する。 3 基礎学力到達度テスト対策に、春期特別授業を実施する。 4 大学進学に向けて、各種模擬試験の活用と夏期進学補習の充実を図る。 5 図書館を利用して、生徒が自ら問題解決の糸口を見つけ出す姿勢を育成する。
学校行事や課外活動を通して、人間的成長を促し、円満な人格形成を図る。	<ol style="list-style-type: none"> 1 修学旅行を通して、団体行動や平和について学習する。 2 部活動を通して、心身を鍛え自主性や協調性を育成する。 3 文化祭などの学校行事を通して、自主性や創造性、協働性を身に付けるとともに、仲間との達成感を共有する。 4 芸術鑑賞会を通して、広く芸術に触れ、親しむ心を育成する。 5 身だしなみ向上週間の活動を通じて、自律心を育成する。
学校の安全管理を徹底するとともに、安全教育を推進する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校安全計画、防災マニュアル(安全管理マニュアル・衛生管理マニュアル・防火管理マニュアル)を実践する。 2 火災や地震を想定した避難訓練、および救急救命講習会や避難器具使用講習会等を実施する。 3 地歴公民や保健体育の授業、ホームルーム活動を通じて、安全や健康について学習する。 4 交通安全教室、スマホ安全教室等を実施し、生徒の危機管理意識を育成する。

I コース1 学年 教育活動シラバス

月	指導内容等	指導のねらい
4	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式 ・対面式・1学期始業式 ・①進路希望調査 ・①体育クラス及び強化部集会 ・部活動説明会 ・健康診断、身体測定、歯科検診 ・基礎学力到達度テスト ・個人面談 ・服装頭髪指導 ・防災避難・通報・消火訓練 ・学級懇談会 	<ul style="list-style-type: none"> ・帰属意識の確立 ・高校生への切り替え ・進路を考える「力」の育成 ・生徒の自律、自覚指導 ・基本的な生活習慣 ・健康維持増進の啓蒙 ・学力向上への啓蒙 ・精神面・生活面・学習面の個別指導・情報把握 ・規範意識の高揚 ・安全な学校生活を送るための準備 ・保護者との連携
5	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒総会 ・実力診断テスト ・校内体育大会(球技系) ・①参観授業 ・春の交通安全登校指導, 自転車点検 ・①学校生活アンケート ・1学期中間試験 ・下宿訪問 ・身だしなみ向上週間 ・スマホ安全教室 ・①英検 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動への自主的参加 ・普段の学習及び学力の定着確認 ・HR集団づくり ・授業の公開及び保護者との連携強化 ・登校時の安全指導 ・生徒の悩み等の把握 ・普段の学習及び学力の定着確認 ・下宿生に対する生活指導 ・自己管理の徹底 ・スマートフォン使用に係るマナー、リスク指導及びトラブル防止 ・資格取得へのチャレンジ
6	<ul style="list-style-type: none"> ・衣替え、身だしなみ向上週間 ・①漢検、①数検 ・②体育クラス及び強化部集会 ・①献血 ・①進路ガイダンス ・1学期期末試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己管理の徹底 ・資格取得へのチャレンジ ・生徒の自律、自覚指導 ・公共心の涵養、ボランティア体験 ・キャリア学習 ・普段の学習及び学力の定着確認
7	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期末試験 ・性についての講演会 ・アカシヤ祭 ・三者面談 ・1学期終業式 ・夏季進学補習 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の学習及び学力の定着確認 ・自己を守るための指導 ・クラスメイトとの協働及び集団作り ・保護者との連携及び生徒の状況把握 ・1学期のまとめ ・1学期の学習内容確認と学力の定着及び学習習慣の定着化
8	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季進学補習 ・キャリアインタビュー 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の学習内容確認と学力の定着及び学習習慣の定着化 ・探究型のキャリア研究による進路を考える「力」の育成

9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 学期始業式 ・ 服装頭髪指導 ・ ②進路希望調査 ・ ③体育クラス及び強化部集会 ・ スタディサポート ・ ②漢検 ・ 文理クラス分け説明会(生徒対象) ・ 生徒会役員選挙 ・ ②参観授業 ・ ②学校生活アンケート ・ 秋の交通安全指導 ・ 校内体育大会 (運動会系) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新学期スタート指導 ・ 規範意識の高揚 ・ 生徒の進路希望状況の把握 ・ 生徒の自律、自覚指導 ・ 普段の学習及び学力の定着確認 ・ 資格取得へのチャレンジ ・ 将来を見据えた進路決定へのサポート ・ 生徒会活動への積極的な参加 ・ 保護者との連携 ・ 生徒の悩み等の把握 ・ 登校時の安全指導 ・ HR 集団づくり
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 衣替え、身だしなみ向上週間 ・ 文理選択・コース変更説明会(保護者対象) ・ 防災避難・通報・消火訓練 ・ ②英検 ・ 2 学期中間試験 ・ 下宿訪問 ・ 授業評価アンケート ・ 芸術鑑賞会 ・ グローバリズムワークショップ (希望者) ・ 体験特指(希望者) ・ ②献血 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己管理の徹底 ・ 保護者との連携 ・ 安全な学校生活を送るための準備 ・ 資格取得へのチャレンジ ・ 普段の学習及び学力の定着確認 ・ 下宿生への生活指導 ・ 日頃の授業評価 ・ 文化面及び情操面の教育 ・ グローバル化に向けた行事への参加 ・ コース変更希望者の体験学習 ・ 公共心の涵養、ボランティア体験
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベネッセ総合学力テスト (11月) ・ ②進路ガイダンス ・ 個人面談 ・ 身だしなみ向上週間 ・ 学年集会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段の学習及び学力の定着確認 ・ キャリアプレゼン大会 ・ 生徒の状況把握 ・ 自己管理の徹底 ・ より良い高校生活のための啓蒙・啓発
12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身だしなみ向上週間 ・ 2 学期期末試験 ・ 2 学期終業式 ・ クリスマスフェスタ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己管理の徹底 ・ 普段の学習及び学力の定着確認 ・ 2 学期の総括 ・ 文化活動の発表体験
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 学期始業式 ・ 服装頭髪指導 ・ ④体育クラス及び強化部集会 ・ 実力診断テスト ・ ③英検、③漢検 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新学期へのスタート指導 ・ 規範意識の高揚 ・ 生徒の自律、自覚指導 ・ 普段の学習及び学力の定着確認 ・ 資格取得へのチャレンジ
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年集会 ・ ベネッセ総合学力テスト (2月) ・ 薬物乱用防止講演会 ・ ③学校生活アンケート ・ ②数研 ・ 予餞会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年生の総括指導 ・ 普段の学習及び学力の定着確認 ・ 薬物に対する認識向上 ・ 生徒の悩み等の把握 ・ 資格取得へのチャレンジ ・ 卒業生送別会
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 学期期末試験、特別授業、スタディサポート ・ ③進路ガイダンス ・ 3 学期終業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段の学習及び学力の定着確認 ・ 基礎学力到達度テストに向けて ・ 1 年間の総括

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
現代の国語	2	1 学年	I コース全クラス

教科書名 標準 現代の国語 (第一学習社)

副教材名 プロGRESS現代文 総演習 基本編 (いいずな書店)

現代語練習帳ことのは (いいずな書店)

デジタル便覧『新版六訂カラー版新国語便覧』(第一学習社)

1 科目目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい	
1 学 期	4	(1)ガイダンス ①授業の進め方 ②予習復習の仕方 ・「ことのは」の豆テスト実施。 ・「プロGRESS」の週末課題実施。	②問題集「プロGRESS」を用いて、演習問題に慣れる。語彙力養成のために「ことのは」に取り組み、知識を高める。	
	5	(2)「なぜ本を読むのか」又吉直樹 「世界は謎に満ちている」手塚治虫 (3)言語活動「論理的な表現」 ①主張と理由の主な流れを学ぶ。 ②グループ活動で発表活動を行う。 【一学期中間試験】	(2)評論文を通して、話者の意見を正確に捉える力を養う。 ①作者の主旨を正確に読解する力を養う。 ②主旨の根拠を具体例から読解する力を養う。 ③二作品に共通する観点を把握し、それに沿って対論を述べる力を養う。	
	6	(1)「言葉遣いとアイデンティティ」 中村桃子	(1)・(2)二項対立の文章を正確に読解し、対比によって主張に論拠を与える方法を学ぶ。	
	7	(2)「水の東西」山崎正和 (3)言語活動「話し方の工夫」「待遇表現」 【一学期期末試験】	(3)話し言葉と書き言葉の使い分け、相手や場面に応じた話し方、表現技法、待遇表現を学び、正確な文章表現の力を身につける。	
	【課題・提出物】 授業ノート・プロGRESS現代文			
	【1学期の評価方法】 定期テストの平均点 80%+平常点 20%(提出物・授業態度・豆テストの平均点)			

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	(1)「言語としてのピクトグラム」 本田弘之	〈評論文〉 ・主旨を理解し、言語表現の多様性について考えを深める力を養う。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する力を養う。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する力を養う。 〈言語活動〉 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明のしかたを工夫する態度を養う。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する方法を学ぶ。 ・異なる形式で書かれた複数の文章を読み、理解したことをまとめる力を養う。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味のしかたを理解し、活用する態度を養う。
	10	(2)「ステレオタイプの落とし穴」 原沢伊都夫 (3)生活の中の表現「法律改正に関わる文章を読み比べる」 【二学期中間試験】	
	11	(1)『『弱いロボット』の誕生』 岡田美智男 (2)「人はなぜ仕事をするのか」内田樹 (3)言語活動「身近な製品の取扱説明書を作成する」	
	12	【二学期期末試験】	
【課題・提出物】 読書感想文・授業ノート・プログレス現代文			
【2学期の評価方法】 定期テストの平均点 80%+平常点 20%(提出物・授業態度・豆テストの平均点)			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	(1)論理分析〈対比〉『『間』の感覚』 高階秀爾	〈論理分析〉 ・文章を分析的に読み、対比構造を用いた論理の展開について理解する力を養う。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する力を養う。 ・事柄が的確に伝わるように、表現のしかたを工夫する態度を養う。 ・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する力を養う。
	2	(2)論理分析〈具体と抽象〉「日本語は世界をこのように捉える」古浜逸郎	
	3	(3)論理分析〈推論〉「AIは哲学できるか」 森岡正博 【三学期期末試験】	
【課題・提出物】 授業ノート・プログレス現代文			
【3学期の評価方法】 定期テストの平均点 80%+平常点 20%(提出物・授業態度・豆テストの平均点)			
【年間の学習状況の評価方法】 定期テストの平均点 80%+平常点 20%(提出物・授業態度・豆テストの平均点)			

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けることができる。	定期試験・豆テスト 提出物
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めることができる。	授業態度・定期試験 発表活動・レポート
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての姿勢がみられる。	授業態度・豆テスト 提出物・発表活動

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

【評論文】

評論文は文章構造を整理し、文の関係に従って抽象的に説明することが大切である。そのため本文から主張・根拠・対論・問題提起などの部分を探し、それを箇条書きにしてからまとめる学習習慣を身につける必要がある。

〈予習〉

- ・事前に作品を読み、主張文・根拠文・対論を探し、線を引いておく。
- ・本文中の難しい語句を辞書などで調べておく。

〈復習〉

- ・授業で学んだ内容を元に、問題演習形式で解答の仕方を定着させる。

【言語活動】

- ・グループ活動では積極的に話し合いを行う。
- ・本文の論点を正確に把握した上で、それに沿って話し合いを進める。
- ・資料を分析する際、客観的な根拠を踏まえた上で分析を行う。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
言語文化	3	1	Iコース全クラス

教科書名 標準 言語文化 (第一学習社)
 副教材名 プロGRESS現代文 総演習 基本編 (いいずな書店)
ニューエイジ古典 基礎 (第一学習社)
ダブルマスター古典文法+漢文句形 (第一学習社)
ベストセレクション古文単語 325 (尚文出版)
デジタル便覧『新版六訂カラー版新国語便覧』 (第一学習社)

1 科目目標

- ① 言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育む。
- ② 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、言語文化に対する理解を深める。
- ③ 論理的思考力、他者への共感力、豊かな想像力を育て、他者に自身の思考や主張を正確に伝える力を養う。
- ④ 言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しむ姿勢を養い、言語文化の担い手として必要な資質を養う。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	一学期中間試験まで(10～15 時間) 〔古語単語豆テスト実施範囲〕 「古文単語」第1章最頻出語 70 〔週末課題〕 ニューエイジ古典(適宜指示する) (1) ガイダンス ①授業の流れをシラバスで確認する。 ②「古文単語」の豆テストの予定を確認する。 ③古文/漢文分野は予習(逐語訳)ー授業ー復習(古典文法の問題集を用いて)のサイクルで実施されるので、やり方を学ぶ。 (2) 「古典のしるべ」ひらがなの誕生 「古文を読むために3 古典の基本文法」 ①古典的仮名遣いを学ぶ。 ※副教材「ダブルマスター」P8・9 も使用。	①授業内容を事前に確認し、基本的な知識を自分で調べる学習態度を身につける。 ②古文読解に必要な不可欠な古語単語の知識を身につける。 ③自学自習の方法を学び、自主的に学習に取り組む習慣を育成する。 (2)古文読解に必要な不可欠な、歴史的仮名遣いの読み方・品詞の知識・動詞の活用の種類について学習する。
	5	②動詞の活用の種類を学ぶ。	

<p>6</p>	<p>(3) 古文「三文にて齒二つ」沙石集 ①全体の内容を把握する。 ②用言の活用の種類・活用形を確認する。 (4)小説「とんかつ」三浦哲郎 ①全文を読み、作品の概要をまとめる。 ②登場人物の心情変化を整理する。 状況→事件→原因→感情の小説の基本的な構造を学ぶ。 ③場面ごとの心情について、グループで話し合いを行う。 【一学期中間試験】 一学期期末試験まで(10～15時間) 〔古語単語豆テスト実施範囲〕 古語単語第2章頻出語 前半 P100～145 (1)古文文法 形容詞・形容動詞の活用を学ぶ。 「ダブルマスター」P34～41 (2)古文「絵仏師良秀」宇治拾遺物語 ①逐語訳を学ぶ。 ②説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ③作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 ④語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ⑤動詞の活用について、文語のきまりを理解する。 ⑥重要古語の意味を文脈で判断する方法を学ぶ。 (3)詩歌「小景異情」室生犀星 ①文語で書かれた詩のリズムや表記の特徴を理解し、作品にこめられた作者の思いを読み取る。 ②作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。</p>	<p>② 活用表を暗記し、問題集を用いて実際の設問で解答の仕方を身につける。 (3)歴史的な文章に触れ、言語文化に対する興味関心を育成する。 ①全文を音読し、概要を把握する力を育成する。 ②文法の知識を実践して、文法の大切さを理解する。 (4)小説読解を通して、文学に親しむ姿勢と、相手が置かれた立場に立って感情を客観的に感じ取る姿勢を育成する。 ③話し合いを通して、感情などの曖昧な事柄を他者に正確に伝える力を育成する。 (1)古文読解の基本知識となる、用言(動詞・形容詞・形容動詞)の活用に関する知識を身につける。 (2)説話の文章構成 物語－訓話 の構造を理解する。 ③文中の発言から、良秀と人々の意識の相違をグループで協議し、客観的・論理的に他者に説明する習慣を身につける。 (3)詩歌の読解を通して、言語文化の担い手としての資質を養う。 ①繰り返し音読し、積極的に詩のリズムを理解する。 ②詩の構成や表現の仕方を吟味し、進んで作者の思いを読み取る力を身につける。 (4)散文詩に親しみ、「I was born」に込められたイメージを理解する。 ②話し合いを通して、考えを共有する姿勢を身につける。</p>
----------	---	--

	<p>7 (4)「I was born」 吉野弘</p> <p>①心情など、作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。</p> <p>②視点人物「僕」が理解したイメージを共有し、感じ取った内容をグループで話し合う。</p> <p>【一学期期末試験】</p> <p>【夏季休業中の課題】</p> <p>(1) 創作(詩・俳句・短歌・小説から選択)</p> <p>(2) ダブルマスター古典文法+漢文句形 P42~43</p>	
<p>【課題・提出物】 授業ノート ダブルマスター古典文法+漢文句形 P8~41</p> <p>[週末課題] ニューエイジ古典</p>		
<p>【1学期の評価方法】</p> <p>定期テストの平均点 80%+平常点 20%(豆テスト平均点・授業態度・提出物等) 20%</p>		
月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	<p>二学期中間試験まで(13~18時間)</p> <p>〔古語単語豆テスト実施範囲〕</p> <p>古語単語第2章頻出語 後半 P146~190</p> <p>9 (1)小説「羅生門」 芥川龍之介</p> <p>①行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。</p> <p>②小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを整理する。</p> <p>③典拠となった『今昔物語集』の説話と読み比べる。</p> <p>10 (2)古典文法「ダブルマスター」 P42~49</p> <p>付属語 助動詞「き」「けり」「つ」「ぬ」「たり」「り」「ず」</p> <p>【二学期中間試験】</p> <p>二学期期末試験まで 17~21時間</p> <p>〔古語単語豆テスト実施範囲〕</p> <p>古語単語第3章入試重要語 P192~243</p> <p>(1) 古文「枕草子」うつくしきもの</p> <p>①「なる」「ぬ」「たる」の識別について学ぶ。</p>	<p>(1)名作の読解を通じて、読書の意義と効用を理解し、読書習慣の定着と言語文化に対する興味関心を身につける。</p> <p>①行動や心理描写を的確に捉えるための、基本的な読解方法を身につける。</p> <p>②小説を意味段落で整理し、構成や展開を把握する視点を身につける。</p> <p>③典拠との比較を通して、学問研究の方法を身につける。</p> <p>(2)基本的な助動詞文法を学び、逐語訳に必要な力を身につける。</p> <p>(1)日本の言語文化を代表する随筆を通して、日本の伝統的な価値観を学ぶ。</p>

	<p>②グループで協議の上、文脈に合わせて単語の意味を選択し、的確な逐語訳を行い発表する。</p> <p>(2)古典文法+漢文句形 P50～57 「む・べし・じ・まじ・らむ・けむ」</p> <p>(3)漢文の学習・訓読に親しむ・「五十歩百歩」・「矛盾」</p> <p>(含) 古典文法+漢文句形 P154～167</p> <p>11</p> <p>12</p> <p>【二学期期末試験】</p> <p>【冬季休業中の課題】</p> <p>ニューエイジ古典</p>	<p>①入試で頻出する文法的な考察による識別方法を学び、基礎学力到達度テストに向けた必要な能力を養う。</p> <p>②共同作業と発表活動を通して、情報発信能力を養う。</p> <p>(2)古文の助動詞の知識を深め、入試対策の基礎を定着させる。</p> <p>(3)漢文の訓読法・ルール・文型・否定形を学び、入試に必要な基礎力を身につける。</p>
<p>【課題・提出物】 授業ノート 古典文法+漢文句形 P42～57</p> <p>[週末課題] ニューエイジ古典</p>		
<p>【2学期の評価方法】</p> <p>定期テストの平均点 80%+平常点 20%(豆テスト平均点・授業態度・提出物等)</p>		
月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	<p>三学期期末試験まで(16～21 時間)</p> <p>[古語単語豆テスト実施範囲]</p> <p>古語単語第4章入試注目語 P246～294</p> <p>(1)古文「東下り」伊勢物語</p> <p>①グループ学習で逐語訳に取り組み、担当範囲の口語訳を発表する。</p> <p>②「ぬ」の識別について学ぶ。</p> <p>2</p> <p>(2)ダブルマスター古典文法 P58～77</p> <p>「らし・めり・なり・まし・なり・たり・る・らる・す・さす・しむ・まほし・たし」</p> <p>(3)漢文 史伝「鶏口牛後」十八史略</p> <p>(4)ダブルマスター漢文句形 再読文字 P168～169</p> <p>3</p> <p>【三学期期末試験】</p>	<p>(1)歌物語を通して和歌と物語との関係を学び、和歌に関する問題の解答方法を学ぶ。</p> <p>①グループによる訳出作業を通して、能動的に学習する習慣を身につける。また発表活動を通して、説明する力、聞く力を養う。</p> <p>②助動詞を識別する実践的力を養う。</p> <p>(3)史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える力を養う。</p>
<p>【課題・提出物】 授業ノート ダブルマスター古典文法+漢文句形(授業実施部分)</p> <p>[週末課題] ニューエイジ古典</p>		
<p>【3学期の評価方法】</p> <p>定期テストの平均点 80%+平常点 20%(豆テスト平均点・授業態度・提出物等)</p>		
<p>【年間の学習状況の評価方法】</p> <p>定期テスト5回の平均点 80% 平常点 20%(豆テスト平均点・授業態度・提出物等)</p>		

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている	定期テスト・授業態度 豆テスト・課題状況
思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできる。	定期テスト・発表活動 グループディスカッション
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての姿勢がみられる。	課題に対する取り組み 状況・発表活動

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

- 知識領域(古語単語・古典文法・漢文句形)は、計画的に家庭学習に取り組む。特に例文をよく読み、前後の文脈から考察する習慣を身につける。
- 古典は予習が大切。事前に辞書等を用いて、逐語訳に取り組んだ状態で授業に臨む。
- 復習は、授業で学んだ重要文法・重要語を購入した副教材を用いて問題演習に取り組んで定着させる。
- 週末課題・古語単語テストなど、自分で学習計画を立てて計画的に取り組む。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
歴史総合	2	1 学年	I コース

教科書名 歴史総合 近代から現代へ (山川出版社)
 副教材名 山川歴史総合 用語解説

1. 科目目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を学び、課題を追求・解決することにより、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会で主体的に生きることができる資質、能力を身につける。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	(1) ガイダンス (2) 東アジア・南アジア・東南アジア 世界の形成 (3) 西アジア・ヨーロッパ世界の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古代からの歴史に触れて、東アジア・南アジア・東南アジア・西アジア・ヨーロッパの諸地域世界の形成について理解する。
	5	第1章 (4) アジア諸地域の繁栄と日本① (5) アジア諸地域の繁栄と日本② (6) 主権国家体制の形成と海外進出① (7) 主権国家体制の形成と海外進出②	
	6	1 学期中間試験 第2章 (8) ヨーロッパ経済と産業革命 (9) アメリカ独立革命 (10) フランス革命 (11) 19 世紀前半のヨーロッパ① (12) 19 世紀前半のヨーロッパ② (13) 19 世紀後半のヨーロッパ① (14) 19 世紀後半のヨーロッパ② 1 学期期末試験	<ul style="list-style-type: none"> ・ アジア諸地域に繁栄した帝国の衰退と、日本の江戸幕府の体制について理解する。 ・ 16 世紀以降に、世界の一体化を進めていくヨーロッパ諸国と海外進出を理解する。 ・ 産業革命がイギリスから始まる様子を理解する。 ・ アメリカ独立革命の達成の経緯を理解する。 ・ フランス革命とナポレオンの登場を理解する。 ・ ウィーン体制に対する、ナショナリズムや自由主義的改革を理解する。 ・ ウィーン体制崩壊後の、19 世紀後半のヨーロッパ各国の動きを理解する。
<p>【課題・提出物】 授業ノート・プリント、必要に応じて課題の提出をする。</p>			
<p>【1 学期の評価方法】 定期試験を 80%、平常点（授業態度と課題・提出物）を 20%として評価する。</p>			

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	(1) 19世紀のアメリカ大陸 (2) 西アジアの変容 (3) 南アジア・東南アジアの植民地化 (4) 中国の開港と日本の開国① (5) 中国の開港と日本の開国②	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国の発展への歴史を理解する。 ・19世紀のヨーロッパ諸国による、西アジア進出とアジアの植民地化の進展を理解する。 ・19世紀まで外国貿易を制限していた東アジア諸国に対する欧米諸国の動きと、中国と日本の対応について理解する。 ・日本の新政府への転換と改革を理解する。
	10	(6) 中国の開港と日本の開国③ (7) 明治維新と諸改革 2学期中間試験 第3章(8) 明治初期の対外関係 (9) 自由民権運動と立憲体制 (10) 条約改正と日清戦争 (11) 日本の産業革命と教育の普及① (12) 日本の産業革命と教育の普及②	
	11	第4章(13) 帝国主義と列強の展開 (14) 世界分割と列強の対立① (15) 世界分割と列強の対立② (16) 日露戦争とその影響① (17) 日露戦争とその影響②	
	12	(18) 近代化と現代的な諸課題① (19) 近代化と現代的な諸課題② 2学期期末試験 第5章(20) 国際秩序の変化や大衆化への問い (21) 第一次世界大戦とロシア革命① (22) 第一次世界大戦とロシア革命② (23) 第一次世界大戦とロシア革命③	<ul style="list-style-type: none"> ・新政府の諸外国との関わりを理解する。 ・日本の立憲体制成立への動きを理解する。 ・東アジアの国際関係の変化と戦争を理解する。 ・日本で本格的に導入された欧米の技術と、教育の普及の様子を理解する。 ・列強諸国の帝国主義政策と内政を理解する。 ・列強による世界の大半に地域の支配と、列強相互の関係の変化について理解する。 ・日露戦争が起こった理由と、日本の勝利の理由、その影響について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦が起こった理由と、各国の社会や国際秩序の変化、ロシア革命の勃発と史上初の総力戦と呼ばれる理由について理解する。
		【課題・提出物】 授業ノート・プリント、必要に応じて課した課題と夏課題の提出を求める。	
		【2学期の評価方法】 定期試験を80%、平常点(授業態度と課題・提出物、成果テストの結果)を20%として評価する。	

	月	学習内容	学習のねらい	
3 学 期	1	(1) 国際平和と安全保障①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一次世界大戦後に定められた新しい国際秩序の枠組みと、欧州各国の内政変化を理解する。 ・ アジア・アフリカでの第一次世界大戦の影響と、戦後の変化について理解する。 ・ 1920年代に始まる大衆消費社会を理解する。 ・ 日本で、政治や社会の民主的な「改造」をめざす「大正デモクラシー」の動きが盛んになった理由と、日本の政治や社会にもたらした影響について理解する。 	
	2	(2) 国際平和と安全保障② (3) アジア・アフリカ地域の民族運動① (4) アジア・アフリカ地域の民族運動② (5) 大衆消費社会と市民生活の変容 (6) 社会・労働運動の進展と大衆の政治参加① (7) 社会・労働運動の進展と大衆の政治参加②		
		3学期期末試験		
【課題・提出物】 授業ノート・プリント、必要に応じて課題の提出を求める。				
【3学期の評価方法】 定期試験を80%、平常点（授業態度と課題・提出物）を20%として評価する。				
【年間の学習状況の評価方法】 1学期・2学期・3学期の成績を総合的に評価する。				

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	歴史に対して興味・感心を持ち、自ら進んで授業に参加し、積極的に自分の考えを明確にできる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業参加の状況 ・ 授業に対する姿勢 ・ 授業ノート・プリントの様子
思考・判断	公正な立場から歴史上の出来事について考え、先入観にとらわれず判断できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業での発言内容 ・ 授業での意見表明
技能・表現	得た知識をもとに、歴史的出来事を解き明かし、自分の意見を表現できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業での発言内容 ・ 授業での意見表明
知識・理解	歴史における知識を正確に獲得し、現在について理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業での発言内容 ・ 試験での得点状況

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習方法の相談、学習方法の指導。 ・ 授業内容に関する質問対応。 ・ 自学プリントの作成と配布。 ・ 確認プリントの配布または確認テストの実施。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
公共	2	1学年	Iコース

教科書名 高等学校 公共 (清水書院)

副教材名 新 公共 要点ノート (啓隆社) テーマ別資料 公共 2022 (とうほう)

1 科目目標

- 「公共」とは、私たちが何をどう見るか、どう考えるかで現れてくる空間であり、事柄である。このように「公共」を考えれば、これまで、もっぱら「公共」という観念を独占してきた政府や地方自治体、国際機関等の活動を、私たちの日常生活と関わらせて、とらえ直していく力を養う。
- 思想は歴史的背景と前時代の課題を受けて成立するものであり、先哲の思想を学ぶことで人間とは何か、自分はどうかあるべきかを深く探求する。
- 人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めることにより、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方、生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	第1編 公共の扉をひらく	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青年期とは、人生の中でどのように位置づけられているかの特徴を知り、この時期に求められている課題について考え理解する。 ・ 哲学とはどのようなものであり、またどのように展開していったのか理解する。 ・ 宗教とは何だろうか。その教えと私たちの価値観とのつながりや違いについて考え理解する。 ・ 公共を形づくっている様々な要素は近代の西ヨーロッパに原型がある。西洋近代の始まりは、どのようなものであったか理解する。
		第1章 公共的な空間をつくる私たち	
		1 私たちの人生と社会	
		2 青年期の心理と課題	
	5	3 哲学の始源と発展	
		4 一神教の教え	
		5 東洋の宗教と思想(1)(仏教)	
		6 東洋の宗教と思想(2)(儒教)	
	6	7 日本の風土と神仏への信仰	
		8 江戸時代の学問と近代化への歩み	
		1 学期中間試験	
		第2章 公共的な空間における人間	
7	1 義務論と功利主義		
	第3章 公共的な空間における基本原理		
	1 近代的な人間像の誕生(1)		
	2 近代的な人間像の誕生(2)		
	3 国際社会と人間性(1)		
	4 国際社会と人間性(2)		
5 国際社会と人間性(3)			
6 公共性の復権と他者についての思考			
1 学期期末試験			
【課題・提出物】 定期試験後に授業ノート・ワークノート提出			
【1学期の評価方法】			
①定期試験の成績 教科書の範囲内の重要語句や語句を理解しているか出題する。			
②学習課題、および学習態度の平常点(20%以内)			

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9 10	第2編 基本的人権の尊重と法 第1章 民主政治の原理 1 近代国家と立憲主義 2 日本国憲法の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法はどのような経緯で成立したか理解する。 ・日本国憲法の三原理は相互にどのような関連を持つのか理解する。 ・平和主義がどのように具体化されているか理解する。 ・人間が尊重されて生きていくために、憲法はどのような自由・平等等を保障しているか理解する。 ・政治に参加する権利として、憲法はどのような権利を保障しているか理解する。
		第2章 人権の尊重と日本国憲法 1 日本国憲法の三原理と人権保障	
		2 平和主義と国際社会	
		3 平等権	
		4 自由権	
		5 社会権	
		6 参政権の保障と国務請求権	
		7 新しい人権	
	11 12	8 グローバル化と国際人権 2学期中間試験	
		第3編 現代の民主政治と社会参画 第1章 民主政治の成立と危機 1 自由民主主義の成立と危機 2 現代の自由民主主義と課題 3 世論の形成と民主社会	
		4 政治参加と主権者（有権者） 5 選挙と政党	
		第2章 日本の政治機構 1 国会の役割としくみ 2 内閣と行政機関 3 裁判所の役割としくみ 4 市民社会と司法参加 5 地方自治と住民の生活 2学期期末試験	
<p>【2学期の評価方法】</p> <p>①定期試験の成績 教科書の範囲内の重要語句や語句を理解しているか出題する。</p> <p>②学習課題、および学習態度の平常点（20%以内）</p>			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	第4編 現代の経済社会と国民生活	<ul style="list-style-type: none"> ・経済をかたちづくる3つの部門の役割と機能について考察する。 ・市場機構によって解決できない問題など、具体例を通して理解する。
	2	第1章 私たちと経済活動	
	3	1 私たちと経済 2 仕事と社会	
	3	国民経済とGDP	

	<p>第2章 経済社会のしくみと役割</p> <p>1 社会のしくみとしての市場</p> <p>2 市場の機能</p> <p>3 市場の限界</p> <p>4 金融とそのはたらき</p> <p>5 財政とそのはたらき</p> <p>6 現代の企業</p> <p>7 労働問題</p> <p>8 社会保障の役割</p> <p>9 少子高齢化と財政の維持可能性</p> <p>3学期期末試験</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経済指標としての国民所得やGDP、および国民生活の豊かさを支えるフローとストックの意味を理解する。 ・金融に関する基礎知識及び、しくみを理解する。 ・マネーサプライと金融機関の意義を理解する。 ・財政のしくみや租税についての基礎知識を理解する。 ・資本主義経済のしくみとその特徴を理解する。 ・資本主義経済の発展と変容を、その矛盾を克服する試みとして登場した社会主義経済と比較しながら理解を深める。
<p>【課題・提出物】 定期試験後に授業ノート・ワークノート提出【3学期の評価方法】</p> <p>①定期試験の成績 教科書の範囲内の重要語句や語句を理解しているか出題する。</p> <p>②学習課題、および学習態度の平常点(20%以内)</p>		
<p>【年間の学習状況の評価方法】</p> <p>○総合評価は、学期末ごとに行う。総合成績には平常点が含まれる。</p> <p>○平常点は以下を踏まえて、20%以内とする。</p> <p>①授業に対する意欲と関心</p> <p>②課題等への取り組み(宿題・レポート等)</p> <p>③年数回のノート提出(板書事項・配布プリントの確認)</p>		

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<p>授業内容を適切に理解し、教科書・用語集を読みこなすことができる。</p> <p>授業で得た知識をもとに、社会において必要な表現力を導き出すことができる。</p>	<p>○授業の様子</p> <p>○授業ノート</p> <p>○定期試験</p>
思考・判断・表現	<p>偏見を除き、公平・公正な立場から社会的判断を身につけることができる。</p>	<p>○授業の様子</p> <p>○授業ノート</p> <p>○定期試験</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>現代社会に興味・関心を持ち、自ら進んで授業参加と、積極的な発言ができる。</p>	<p>○授業の様子</p> <p>○授業ノート</p>

4 学習サポート(事前・事後学習等について)

時事問題などを例に挙げ、新聞やニュースで聞いたことのある内容も勉強し、社会を生き抜くために必要な知識が身につくようサポートしていく。苦手意識を持たずに積極的に授業参加し、理解できなかったこと、疑問点があれば、どんどん質問に来てほしい。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
数学Ⅰ・数学A	4(数Ⅰ)+2(数A)	Iコース1学年	1学年Iコース

教科書名 新編 数学Ⅰ 新編 数学A 新編 数学Ⅱ (啓林館出版)
 副教材名 アベレージ数学Ⅰ+A アベレージ数学Ⅱ+B

1. 科目目標

- 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な考え方(論理的思考)を身に付ける。
- 答え(結果)だけでなく、解く過程である「解答」を数字や文字を用いて表現できる能力を養う。
- 発展的・研究的内容にも取り組み、自ら気づき、学びとる姿勢(探求型学習)を身に付ける。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	【数学Ⅰ】 第1章 数と式 第1節 整式(5) ・整式とその加減 ・整式の乗法 ・因数分解	<ul style="list-style-type: none"> ・数を実数まで拡張する意義を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり、処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用する。 ・2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用する。
	5	第2節 実数(4) ・実数 ・平方根 第3節 1次不等式(5) ・1次不等式	
		第3章 2次関数 第1節 関数とグラフ(7) ・関数 ・2次関数のグラフ ・2次関数の決定	
		1学期中間試験 [21 時間]	
	6	第2節 2次関数の最大・最小(6) ・2次関数の最大・最小 第3節 2次関数と方程式・不等式(10) ・2次方程式 ・2次関数のグラフとx軸の共有点	
	6	・2次不等式とその解	
	7	1学期期末試験 [25 時間]	

		<p>【課題・提出物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 問題集から出題（プリント形式による出題もある）、GW 課題など 	
		<p>【第1学期の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験（中間・期末の2回）の成績・・・80% ○ 学習態度、課題提出状況等の平常点・・・・・・・・・・・・・20% <p>（問題集等の課題提出状況・模擬試験や確認テスト等の成績を評価）</p>	
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	<p>【数学A】</p> <p>序章 集合（1）</p> <p>第1章 場合の数と確率</p> <p>第1節 場合の数（5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集合の要素の個数 ・場合の数 <p>第2節 順列・組合せ（8）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順列 	<ul style="list-style-type: none"> ・集合や場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用する。
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・組合せ ・いろいろな順列 <p>第3節 確率とその基本性質（5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象と確率 ・確率の基本性質 ・期待値 <p>第4節 いろいろな確率（6）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独立な試行 ・反復試行 ・条件付き確率 	
	11	<p>2学期中間試験 [25 時間]</p> <p>【数学I】</p> <p>第2章 集合と命題</p> <p>第1節 集合と命題（8）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命題と集合 ・論証 <p>【数学A】</p> <p>第2章 図形の性質</p> <p>第1節 三角形の性質（7）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直線と角 ・三角形の重心・外心・内心・垂心 ・チェバの定理とメネラウスの定理 	
			<ul style="list-style-type: none"> ・命題に関する基本的な概念を理解し、対偶や背理法などの証明方法から証明の基本的な表現方法を学ぶ。 ・平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用する。

<p>12</p>	<p>第2節 円の性質(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・円周角 ・円と直線 ・2つの円の位置関係 <p>【数学I】</p> <p>第4章 図形と計量</p> <p>第1節 鋭角の三角比(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三角比の値 ・三角比の相互関係 <p>第2節 鈍角の三角形(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・$0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ の三角比 ・三角比の相互関係 <p>第3節 図形の計量(10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正弦定理 ・余弦定理 ・図形の計量 <p>2学期期末試験 [35 時間]</p> <p>【数学I】</p> <p>第5章 データの分析</p> <p>第1節 データの整理と分析(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・度数分布表とヒストグラム ・データにおける代表値 ・5数要約と箱ひげ図 ・分散と標準偏差 <p>第2節 データの相関(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データの相関 ・相関係数 <p>第3節 統計的な見方(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計的探求プロセス ・仮説検定の考え方 	<ul style="list-style-type: none"> ・三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用する。 ・統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握する。
<p>【課題・提出物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 問題集から出題(プリント形式による出題もある) ○ 夏休み課題 		
<p>【第2学期の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(中間・期末の2回)の成績・・・80% ○ 学習態度、課題提出状況等の平常点・・・・・・・・・・20% <p>(問題集や夏休みの課題提出状況・確認テスト・模擬試験等の評価)</p>		

月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	<p>1</p> <p>【数学A】</p> <p>第3章 数学と人間の活動（7）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユークリッドの互除法 ・二元一次不定方程式 ・倍数の判定 ・位取り記数法とn進法 ・座標 ・地球を測る ・石取りゲーム ・マスの敷き詰め <p>【数学II】</p> <p>第1章 式と証明</p> <p>第1節 整式の乗法・除法と分数式（6）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整式の乗法 ・二項定理 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の約数や倍数についての理解を深めるとともに、視点を変えた計算法からその発展的な内容にも対応できるようにする。
	<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整式の除法 ・分数式とその計算 <p>第2節 等式・不等式の証明（9）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恒等式 ・等式の証明 ・不等式の証明 <p>第2章 複素数と方程式</p> <p>第1節 複素数と2次方程式（7）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複素数 ・2次方程式 ・2次方程式の解と係数の関係 <p>第2節 因数定理と高次方程式（4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・剰余の定理と因数定理 ・高次方程式 	<ul style="list-style-type: none"> ・整式の乗法と除法および分数式の四則計算について理解できるようにする。 ・等式と不等式の証明方法を、基本的な部分から理解することで、解答の作り方を学ぶ。 ・方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数までに拡張して2次方程式を解くこと、及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。
	<p>3</p> <p>3学期期末試験 [36 時間]</p> <p>春季特別授業（6）</p> <p>基礎学力到達度テストに向けた演習</p>	
<p>【課題・提出物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 問題集から出題（プリント形式による出題もある） ○ 冬休み課題 		

	<p>【第3学期の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験(学年末の1回)の成績・・・80% ○ 学習態度、課題提出状況等の平常点・・・・・・・・・・・・・20% <p>(問題集や冬休みの課題提出状況・確認テスト・模擬試験等の評価)</p>
	<p>【年間の学習状況の評価方法】</p> <p>年間の成績は、学期末に各学期の成績を総合して評価する。</p>

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	授業の内容を理解し、活用することで問題を解くことができる。	授業態度 課題 定期試験等
思考・判断・表現	問題を読み、解き方の考察ができる。また、授業で得た知識を活用し、解答を表現することができる。	授業態度 課題 定期試験等
主体的に学習に取り組む態度	数学に興味・関心を持ち、積極的に授業に参加することができる。	授業態度 課題

4. 学習サポート

<p><授業について></p> <p>① 授業の形態</p> <p>授業は、学習内容に合わせて、習熟度クラス編成や学級ごとの授業、また、ティームティーチング(TT)を組み合わせて行う。</p> <p>② iPadの利用</p> <p>iPadを利用した授業を展開する。</p> <p>③ 学び合い【アクティブラーニング(主体的・対話的で深い学び)】</p> <p>授業中に、演習の時間も設けるので、積極的に「学び合い」を行う。分からないところを友人や教員に質問し(問題解決に向けた主体的・対話的な学び)。自分が分かったのであれば、友人に教えると(対話的で深い学び)、より内容の定着度が上がる。</p> <p><宿題について></p> <p>授業進度に合わせて、宿題を配布する。授業内容の確認や定着を図るためには、自ら考えて「やってみる」ことが大切である。解らない箇所をそのままにすることなく、友人や教員に相談や質問を通して早めに解決できるようにしてほしい。</p>
--

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
物理基礎	2	1年	I・IIコース

教科書名 改定物理基礎（東京書籍）

副教材名 ニューアチーブ物理基礎（東京書籍）

1. 科目目標

1) 物理に対する興味関心を高め、物理の基礎的な考え方を身に付ける。

2) 生涯にわたり必要となる科学的な知識・思考力を身に付ける。

3) 物理の学習を通じて、自ら主体的に学ぶ姿勢と、他者と協働して学習する態度を身に付ける。

学習した基本的な原理・法則を用いて、身近な物理的な事物・現象を物理学的に解釈し、また、物理に関わる問題に直面したときに、自分の力で解決する方法を見いだす能力と態度を身に付ける。そのために、原理や法則を単に暗記するのではなく、それらを理解させることを目的とし、法則の導出の過程を自ら探求し考える。

また、物理現象を理解するにあたり、授業を聞くだけでなく、自らの考えを自分の言葉で表現する機会を大切にし、科学的な思考力を言語表現力とともに高める。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
一 学 期	4	物理量の測定と扱い方 速度・加速度	<ul style="list-style-type: none"> 有効数字を考慮した数値の表し方を学ぶ。 直線運動における変位，速度，加速度などの運動の表し方を理解する。
	5	1 速さと等速直線運動 2 直線運動の加速度 3 落体の運動	<ul style="list-style-type: none"> 直線上を運動する物体の加速度について理解し、グラフや式を使って物体の運動を分析する。
	6	さまざまな力とそのはたらき 1 力とつり合い 2 運動の法則	<ul style="list-style-type: none"> 物体が空中を落下する際の運動の特徴について理解し、鉛直方向の落下運動の式が扱える。 物体にはたらく様々な力を見抜いてベクトルで表す方法を身につけるとともに、それらの力がつり合う条件を見いだせるようにする。 作用反作用の法則を理解する。 慣性の法則，運動の法則について理解し，物体にはたらく力と運動との関係を分析する。
【課題・提出物】 ・確認テストおよび AL リフレクションシート ・ニューアチーブ物理基礎			
【1学期の評価方法】 定期試験 ＋ 平常点 平常点は以下の項目などにより評価する。 ○ニューアチーブ物理基礎の取り組み ○授業に対する意欲・積極性			

月	学習内容	学習のねらい
9	3 さまざまな運動とはたらく力 力学的エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・連結、押し合う2物体の運動を考える。 ・摩擦力を受ける物体の運動について学ぶ。 ・エネルギーを測るものさしとしての仕事の定義、及び仕事の原理と仕事率について理解する。 ・仕事をする能力としての運動エネルギーと位置エネルギーの表し方について理解する。 ・力学的エネルギー保存の法則とその適用条件について、仕事と関連付けて理解を深める。 ・熱の正体、温度目盛りについて理解する。 ・熱量、熱容量、比熱、及び熱量の保存について理解し、熱を定量的に扱えるようになる。 ・仕事と熱の変換、内部エネルギー、及び熱力学第一法則について学び、熱現象とエネルギーの関係について理解する。 ・熱機関とその熱効率及び熱現象の不可逆性について学び、エネルギーの有効利用についての理解を深める。 ・波の伝わり方について理解する。 ・波の基本的な性質を理解し、波の速さ、波長、周期や振動数の量的関係を扱えるようになる。
10	1 仕事 2 運動エネルギーと位置エネルギー 3 力学的エネルギーの保存	
11	熱 1 熱と温度 2 熱の利用	
12	波 1 波の性質	
<p>【課題・提出物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認テストおよび AL リフレクションシート ・ニューアチーブ物理基礎 ・夏期休業中課題 <p>【実験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・力学的エネルギーの実験 ・ブラウン運動の観察 ・縦波と横波の観察 <p>【2学期の評価方法】 定期試験 + 平常点 平常点は以下の項目などにより評価する。 ○ニューアチーブ物理基礎の取り組み ○授業に対する意欲・積極性 ○夏期課題</p>		
月	学習内容	学習のねらい
1	2 音と振動	<ul style="list-style-type: none"> ・波の独立性、重ね合わせの原理、反射について観察や作図を通して学び、定常波ができるしくみについて理解する。 ・音波の性質として、うなり、固有振動、共振、共鳴などを学び、楽器の原理について理解する
2		
3		
<p>【課題・提出物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認テストおよび AL リフレクションシート ・ニューアチーブ物理基礎 <p>【実験】・音の波形の観察</p>		

<p>【3学期の評価方法】 定期試験（80%）・平常点（20%） 平常点は以下の項目などにより評価する。 ○ニューアチーブ物理の取り組み ○授業に対する意欲・積極性 ○冬期休業中課題</p>
<p>【年間の学習状況の評価方法】 定期試験 + 平常点 平常点は以下の項目などにより評価する。 ○ニューアチーブ物理の取り組み ○授業に対する意欲・積極性 ○長期休業中課題への取り組み</p>

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	物理量や物理の現象について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	定期考査 確認テスト
思考・判断・表現	様々な物理現象について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	グループワークにおける活動 定期試験
主体的に学習に取り組む態度	学習活動に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究している。	学習活動における態度、 振り返りシート

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

<p>1. 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度を身につけましょう。</p> <p>2. 物理法則の導出過程を大切にし、論理的な思考力を高めよう。</p> <p>3. クループ活動・討論をしながら、学び合い・教え合う姿勢を身につけましょう。</p> <p>4. 繰り返し演習に取り組み、徹底して基礎を定着させましょう。</p> <p><定期試験に向けて></p> <p>1. 演習プリントで基礎の確認。（教科書、授業プリントの見直しや解き直し）</p> <p>2. ニューアチーブ物理を2～3周し、理解を深めましょう。</p>

科目	単位数	対象学年	対象クラス
化学基礎	2	1	全クラス

教科書名 化学基礎 academia (実教出版)

副教材名 新インプレス化学基礎ノート (浜島書店)

1 科目目標

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	1章 物質の構成 1節 物質の探究 1 物質の分離と精製 2 物質と元素 3 物質の三態と熱運動	・物質が原子、イオン、分子から構成されていることを理解する。
	5	2節 物質の構成粒子 1 原子の構造 《1学期中間試験(8時間)》 2 イオンの生成 3 周期表	・構成粒子の違いと物質の種類の違いを理解する。
	6	2章 物質と化学結合 1節 イオン結合	・イオンの生成を電子配置と関連付けて理解し、イオン結合およびイオン結合からなる物質の性質を理解する。
	7	1 イオン結合とイオン結晶 《1学期期末試験(8時間)》	
【課題・提出物】 (1) 授業中に配布する演習プリント (2) 授業ノート (3) 各定期テストの該当範囲を解答したインプレス化学基礎ノート			
【1学期の評価方法】 (1) 定期試験の成績(80%) ①知識・理解の確認とともに、実験について問う記述式問題も出題する。 (2) 学習態度等の平常点(20%) ①授業時の学習過程で、評価の観点の3項目について評価する。 ②課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。			

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	2章 物質と化学結合 2節 共有結合と分子間力 1 共有結合 2 分子間力 3 共有結合からなる物質 3節 金属結合 1 金属結合	<ul style="list-style-type: none"> 共有結合を電子配置と関連付けて理解し、分子からなる物質の性質を理解する。さらに、分子間の結合によって物質ができていることを理解する。配位結合の仕方も学習する。 金属原子間の結合及び金属からなる物質の性質を理解する。 1～3節において学んだ物質の結晶を、結合の違いによって区別し、性質を整理する。具体的な物質について、それぞれ性質や利用例を理解する。 原子量・分子量・式量などの物質量の基本事項を学習する。 物質量と溶液の濃度の関係を学習する。
	10	4節 化学結合と物質 1 物質の分類 《2学期中間試験(10時間)》	
	11	3章 物質の変化 1節 物質量と化学反応式 1 物質量と分子量・式量 2 物質量 3 溶液の濃度	
	12	《2学期期末試験(12時間)》 4 化学反応式 A 化学変化と化学反応式	
【課題・提出物】 (1) 授業中に配布する演習プリント (2) 授業ノート (3) 夏季休業中の課題 (4) 各定期テストの該当範囲を解答したインプレス化学基礎ノート			
【2学期の評価方法】 (1) 定期試験の成績(80%) ①知識・理解の確認とともに、化学的思考を問う問題も出題する。 (2) 学習態度等の平常点(20%) ①授業時の学習過程で評価の観点の3項目について評価する。 ②課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	4 化学反応式 B 化学変化式と量的関係	<ul style="list-style-type: none"> 化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 化学の進歩の歴史と基本的な法則の発見の経緯について理解する。 水溶液の酸性・塩基性の強弱と電離度との関係について理解する。
	2	参考 基本法則に関連した化学史	
	3	2節 酸と塩基 1 酸と塩基 《学年末試験(12時間)》	

<p>【課題・提出物】 (1) 授業中に配布する演習プリント (2) 授業ノート (3) 冬季休業中の課題 (4) 定期テストの該当範囲を解答したインプレス化学基礎ノート</p>
<p>【3学期の評価方法】 (1) 定期試験の成績(80%) ①知識・理解の確認とともに、化学的思考を問う問題も出題する。 (2) 学習態度等の平常点(20%) ①授業時の学習過程で評価の観点の3項目について評価する。 ②課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。</p>
<p>【年間の学習状況の評価方法】 各学期の成績と平常点を総合して評価する。</p>

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 ・物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する基礎を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・授業ノート ・定期テスト ・小テスト ・課題レポート
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・物質とその変化の中に問題を見出し、研究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・授業ノート ・演習プリント ・定期テスト ・課題レポート
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・授業ノート ・演習プリント ・課題レポート

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

<ul style="list-style-type: none"> ・随時、学習相談を実施するので、つまづいている箇所があれば早めに質問してほしい。対面に加えてロイロノートを利用した学習相談も受け付ける。 ・ロイロノートを利用した資料の配信・課題の提出・小テストなどを行い、学習内容の理解の深化や定着させましょう。 ・化学は理系科目の土台になる科目である。2年次以降に化学を選択しない生徒にも共通する範囲があるので、一生懸命に取り組みましょう。
--

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
生物基礎	2	1 学年	I・IIコース

教科書名 生物基礎（数研出版）

副教材名 スクエア最新図説生物（第一学習社） セミナー生物基礎（第一学習社）

スタディアップノート生物基礎（数研出版）

1. 科目目標

1. 「生物」の面白さを知る

「生物」という科目では、生命現象のしくみや生命同士のつながり、生命の歴史について学ぶ。これらは、生命のひとつである「自分自身」を知ること・理解することであり、考えることだ。生命の神秘さ、面白さを知る。

2. 学力をつける

日本大学基礎学力到達度テスト、大学入学共通テストに対応できる学力を構築する。

3. 客観的な視点を育む

「生物」の学びを通して、「自分自身」や「自分自身をとりまく世界」を客観的に理解する視点を育む。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期		生物基礎を学ぶにあたって 探究活動の進め方	
		第1編 生物の特徴	第1章 生物の特徴
	4	第1章 生物の特徴	生物は多様であること、多様な生物にも細胞構造をもつなど共通性があること、その共通性は共通の起源をもつことに由来することを学習する。さらに、
	5	1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝 3. 呼吸と光合成	酵素のはたらき、光合成と呼吸の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを学習する。
	6		
		1学期中間試験[8時間]	

1 学 期	第2章 遺伝子とそのはたらき 1. 遺伝情報と DNA 2. 遺伝情報の複製と分配 3. 遺伝情報の発現 1 学期期末試験 [7 時間]	第2章 遺伝子とそのはたらき 遺伝子の本体である DNA について、構造および遺伝情報はその塩基配列にあることを理解する。また、転写と翻訳の概要から、生命現象において重要なタンパク質の合成について学習する。さらに、遺伝情報は正確に複製されて受け継がれること、それぞれの細胞ではすべての遺伝子が発現しているわけではないことについて学習する。
	【課題・提出物】	
	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験ごとにセミナー生物基礎の指定された問題を解答して、提出する。 	
	【第1学期の評価方法】	
<ul style="list-style-type: none"> 定期試験の成績 (80%) 学習態度及び提出物 (20%) 		

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	7	第2編 ヒトの体内環境の維持	第3章 生物の体内環境 多細胞動物の体内の細胞にとって、体液は一種の環境(体内環境)である。体内環境が一定に保たれているしくみや調節方法について学ぶ。また、循環系、腎臓、肝臓、自律神経系と内分泌系、免疫について学習する。
	9	第3章 ヒトの体内環境の維持 1. 体内での情報伝達と調節 2. 体内環境の維持のしくみ 2 学期中間試験[12 時間]	
	10		
	11	3. 免疫のはたらき 2 学期期末試験 [11 時間]	
		【課題・提出物】	
		<ul style="list-style-type: none"> 定期試験ごとにセミナー生物基礎の指定された問題を解答しえ、提出する 	
		【第2学期の評価方法】	
		<ul style="list-style-type: none"> 定期試験の成績 (80%) 学習態度及び提出物 (20%) 	

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	12	第3編 生物の多様性と生態系	第4章 植生の多様性と生態系 植生について、その構造や遷移のしくみについて学習する。さらに、地球上にはさまざまなバイオームが見られ、バイオームの分布は、気温と降水量によって決まることを理解する。また、生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。その上で、生態系はそのバランスが保たれていることを理解する。
	1	第4章 植生の多様性と生態系	
	2	1. 植生と遷移 2. 植生の分布とバイオーム 3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系のバランスと保全 3学期期末試験 [14時間]	
【課題・提出物】			
<ul style="list-style-type: none"> 定期試験ごとにセミナー生物基礎の指定された問題を解答して、提出する。 			
【第3学期の評価方法】			
<ul style="list-style-type: none"> 定期試験の成績(80%) 学習態度及び提出物(20%) 			
【年間の学習状況の評価方法】			
<ul style="list-style-type: none"> 年間の成績は、学年末に各学期の成績を総合して評価する。 			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時の様子 課題提出 定期テスト
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時の様子 課題提出 定期テスト
技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> 生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、それを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時の様子 課題提出 定期テスト
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 生物や生物現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につけている。 自然界の様々な事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養が身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時の様子 課題提出 定期テスト

4. 学習サポート

<ul style="list-style-type: none"> 随時、学習相談を実施する。 授業内容と問題集の橋渡しとして、単元ごとに演習プリントによる演習を行う。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
体育	2	1	I・IIコース共通

教科書名 現代高等保健体育

副教材名 現代高等保健体育ノート

1 教科目標

生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため

- (1) 運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの知識・技能を身に付ける。
- (2) 自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 健康・安全を確保し、運動に親しむ態度を養う。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	<p>集団行動</p> <p>①集合・隊形</p> <p>②方向変換・列の増減</p> <p>体づくり運動・体育理論(通年で行う)</p> <p>(1) 体づくり運動</p> <p>①体ほぐしの運動</p> <p>②実生活に生かす運動の計画</p> <p>(2) 体育理論</p> <p>スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展(1年次)</p> <p>運動やスポーツの効果的な学習の仕方(2年次)</p> <p>豊かなスポーツライフの設計の仕方(3年次)</p> <p>スポーツテスト(新体カテスト)</p> <p>種目: 握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・持久走・50m走・立ち幅跳び・ハンドボール投げ</p>	<p>・集団の一員として迅速に、かつ安全に行動できるようにする。</p> <p>①のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行うことを通して、気付きや関わり合うことを身に付ける。</p> <p>②健康に生活をするための体力の向上、運動を行うための体力の向上を図る運動の計画と実践に取り組む姿勢を養う。</p> <p>・以下4項目に関し、体育実技の実施と関連させながら学習する。</p> <p>①スポーツの歴史的発展と多様な文化</p> <p>②現代スポーツの意義や価値</p> <p>③スポーツの経済的効果と高潔さ</p> <p>④スポーツが環境や社会にもたらす影響</p> <p>・自分の今持っている体力を知り日常の運動の習慣を身につけ、生涯スポーツに繋がる土台を養う。</p>
	5	<p>ソフトボール(男子)</p> <p>①オリエンテーション</p> <p>(全体・活動計画、ルール等)</p> <p>②キャッチボール、守備練習</p>	<p>・仲間と連携して、ベースボール型スポーツの基本的動作を習得し、攻防を展開できる力を身に付ける。</p> <p>・易しい投球に対する安定したバット操作により出塁、進塁、得点する攻撃と仲間と連携した守備のバランスの取れた攻防を展開できるようにする。</p>
	6	<p>バッティング練習等</p> <p>(ボール操作、バット操作の習得)</p> <p>③初歩的なゲーム</p> <p>(決められた回数で攻防を繰り返す)</p> <p>個人・集団の技能習得内容</p>	<p>・狙ったところへボールを投げることができるようにする。</p> <p>・打球の状況に合わせて身体を操作し、捕球できるようにする。</p>

1 学 期	7	キャッチボール (ゴロ、バウンドボール、フライなど) 捕球からの送球 (シートノックなど) バッティング (トスバッティング, ティーバッティ ング, フリーバッティングなど)	・安定したバット操作を習得し, 易しい投球に対して 狙った方向へボールを打ち返すことを目指す。 ・仲間と連携して, ネット型スポーツの基本的動作を 習得し, 攻防を展開できる力をつける。
	5	バレーボール(女子) ①オリエンテーション 整列指導・規律訓練 指導計画・ルール等 ②ボール慣れ・バレーボールを楽しむ ③個人技術の習得 個人・集団の技能修得内容 直上パス・対人パス オーバーハンド・アンダーハンド サービス アンダーハンド・フローター等 レシーブ サブレシーブ・スパイクレシー ブ・ゲーム ※体育理論	・ボールを落とさず, ラリーを続ける楽しさが感じら れることを目指す。 ・基本技術のパス・レシーブの習得に重点を置き, ラ リーが続けられるようにする。 ・サーブ・レシーブ・スパイク等の練習を通じて, 各 種の技術を取得するとともにルールを理解し, 仲間と 協力してゲームが展開できるようにする。
	6	7	
【課題・提出物】なし			
【1学期の評価方法】 ①実技試験(60%) ソフトボール(男子) ・打球をキャッチしてからの送球やバッティングなどの実技試験。 ・ルールを理解し, 試合を進めることができるか。 バレーボール(女子) ・オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・サービス・スパイク等の実技試験。 ・ルールを理解し, 試合を進める事ができるか。 ②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点(40%) ・積極的に授業へ参加し, 準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。 ・ルール等の確認テスト			
月	学習内容		学習のねらい
9	スポーツテスト(新体力テスト) 種目: 握力・上体起こし・長座体前屈・ 反復横とび・持久走・50m走・立ち幅 跳び・ハンドボール投げ 陸上競技(長距離走) ①ジョギング ②持久走		・自分の今持っている体力を知り日常の運動の習慣を 身につけ, 生涯スポーツに繋がる土台を養う。 ・休まずに決められた距離・時間を自分のペースで走 ることができるようにする。 ・比較的長い距離を決められた時間内でゴールするこ とができるようにし, 記録の向上を目指す。
10	サッカー(男子) ①キック インステップキック		・仲間と連携して, ゴール型スポーツの基本的動作を 習得し, 攻防を展開できる力をつける。 インステップキック 自分の狙った場所にボールを蹴る。

2 学 期	11	<p>インサイドキック リフティング</p> <p>②コントロール グラウンダーのボール, 浮き球 ③ドリブル</p> <p>④フェイント フェイントシザース ボディフェイント</p> <p>⑤ゲーム</p> <p>⑥ルールの理解</p>	<p>インサイドキック 自分の狙った場所にボールを蹴る。 リフティング ボールを落とさずに蹴り続けることができる。自分の蹴りやすい場所にボールを置くことができる。</p> <p>・エッジコントロール・クッションコントロール・胸, 正確なボールタッチで速くボールを運ぶことができる。 ・落ち着いてフェイントの技術を発揮することができる。 ・攻撃・守備の基本的な原則を理解し実践することができる。 ・ルールの理解</p> <p>プレイの開始, ファウル, 不正行為, オフサイド, スローイン, ゴールキック, コーナーキックを理解してゲームに取り組むことができるようにする。</p>
	10	<p>ダンス (女子)</p> <p>①ウォーミングアップ ストレッチ・クーリングダウン</p>	<p>・仲間と連携して, ダンス (課題)・リズムの特徴を捉え, 変化とまとまりを付けて踊ることができる。</p> <p>①各動作の特徴を正確にとらえ, 表現することができるようにする。</p>
	11	<p>②現代的なリズムのダンス ヒップホップ・エアロビクスなど</p> <p>③発表</p>	<p>②音楽に合わせて表現したい内容を踊り, 楽しむ。 ③作品に変化とまとまりを付けて発表をする。 ・仲間と連携して, ネット型スポーツの基本的動作を習得し, 攻防を展開できる力をつける。</p>
	12	<p>卓球 (男子)</p> <p>①グリップ 用具の扱い方</p> <p>②ストローク</p>	<p>・用具の操作について理解をする。 フォアハンド・バックハンドの正しいフォームを習得し, ラケットの中央でボールを捉えられるようにする。</p>
	12	<p>バスケットボール (女子)</p> <p>基本動作 ※体育理論</p>	<p>・仲間と連携して, ゴール型スポーツの基本的動作を習得し, 攻防を展開できる力をつける。 ・ルールや基本動作を理解・実践する。</p>
<p>【課題・提出物】 なし</p>			
<p>【第2学期の評価方法】</p> <p>①実技試験 (60%) サッカー (男子)</p> <p>・インステップキック, インサイドキック, リフティングなどの実技試験。 ・ルールを理解し, 試合を進める事ができるか。</p>			

2 学 期	<p>ダンス（女子）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振りを的確に覚え、表現することが出来るか。（個人・集団） ・ダンスの特性に関心を持ち、楽しさや喜びをあじわえるよう進んで取り組もうとしているか。 ・互いの良さを認め合い、協力して練習及び創作・発表に取り組んでいるか。 <p>陸上競技（長距離走）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に練習に取り組んでいるか。 ・個々の能力に応じた記録の向上がみられたか。 <p>②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点（40%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。 ・ルール等の確認テスト。 							
3 学 期	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="193 725 252 757">月</th> <th data-bbox="252 725 790 757">学習内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="193 757 252 788">1</td> <td data-bbox="252 757 790 788">卓球（男子）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="193 788 252 1480">2</td> <td data-bbox="252 788 790 1480"> ①グリップ ②ストローク ③サービス ④ルールの理解 ⑤ラリーの組み立て方 バスケットボール（女子） ①ハンドリング ②レグスルー ③シュート セットシュート レイアップシュート ④ドリブル各種 ⑤パス各種 ⑥ゲーム・ルールの理解 ※体育理論 </td> </tr> </tbody> </table>	月	学習内容	1	卓球（男子）	2	①グリップ ②ストローク ③サービス ④ルールの理解 ⑤ラリーの組み立て方 バスケットボール（女子） ①ハンドリング ②レグスルー ③シュート セットシュート レイアップシュート ④ドリブル各種 ⑤パス各種 ⑥ゲーム・ルールの理解 ※体育理論	<p>学習のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス時のルールを理解させロング、ショートサービスを使い分けるようにする。 ・基本的なルールを理解する。 ツッツキ、ドライブなどの球種を理解しゲームの中の攻防に組み入れることができるようにする。 卓球の特性であるリズム感を習得し、ラリーを続けることができるようにする。 ・手、指でボールを扱うことができる。 ・ボールを両手、片手、左右で自在に操ることが出来る。パス、ドリブル、シュートの感覚を身に付ける。 ・レイアップシュート、ゴール下シュートができるようにする。 攻撃・守備の基本を理解し、基本的な技術を身につけ、ミニゲームで実践することができるようにする。
月	学習内容							
1	卓球（男子）							
2	①グリップ ②ストローク ③サービス ④ルールの理解 ⑤ラリーの組み立て方 バスケットボール（女子） ①ハンドリング ②レグスルー ③シュート セットシュート レイアップシュート ④ドリブル各種 ⑤パス各種 ⑥ゲーム・ルールの理解 ※体育理論							
【課題・提出物】なし								
<p>【第3学期の評価方法】</p> <p>①実技試験（60%）</p> <p>卓球（男子）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サーブ、スマッシュ等の試験による評価。 ・ルールを理解し、試合を進めることができる。 <p>バスケットボール（女子）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドリブル・シュートの試験による評価。 ・ルールを理解し、試合を進めることができる。 ・道具の準備や片付けを協力しながら積極的にできる。 <p>②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点（40%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。 ・ルール等の確認テスト。 								

【年間の学習状況の評価方法】

学年末評定は1学期・2学期・3学期の実技の平均（60%）

年間の授業態度・意欲・服装・出席状況・（40%）

上記を総合的に判断して評価する。

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<p>運動の合理的, 計画的な実践に関する具体的な 事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに, 目的に応じた技能を身に付けている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動技術（技）の名称や試合を進めるためのルールを学ぶ姿勢がある。 2. 各運動の特性に応じて段階的な技能を身につけており, ゲームに生かすことができる。 3. 各運動の特性に応じて勝敗を競い, 攻防を展開できる技能を有する。 4. ミニゲームの審判を務めることができる。 	<p>実技テスト 確認テスト 記録 観察</p>
思考・判断・表現	<p>自己や仲間の課題を発見し, 合理的, 計画的な解決に向けて, 課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに, それを他者に伝えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己や仲間の状況に応じて体力を高める運動を継続するための取り組みを工夫し, 伝えようとしている。 2. 課題解決のために身に着けた技能を生かすことができる。 	<p>記録 観察</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう, 運動の合理的, 計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席が少なく, 授業への参加態度が良好である。 2. 健康・安全に配慮した服装で参加をし, 学習に主体的に取り組もうとする態度で臨んでいる。 3. 多様性を理解し仲間と協力することができる。 	<p>記録 観察</p>

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

実技科目の特性上, 基本は授業内で実施をするが, 必要性や状況に応じて対応をする。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
保健	1	1	I・IIコース共通

教科書名 現代高等保健体育 (大修館書店)

副教材名 現代高等保健体育ノート (大修館書店)

1 科目目標

健康・安全について理解を深めるようにし、自らの健康に興味を持ち、適切に管理し改善していくための資質・能力を育成する。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい	
1 学 期	4	1 単元 現代社会と健康 1 健康の考え方と成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな健康の考え方について理解する。 ・健康を成り立たせている要因を理解する。 ・わが国の健康水準の変化とその背景について理解する。 	
		2 私たちの健康のすがた	<ul style="list-style-type: none"> ・わが国の現在の健康問題について理解する。 ・生活習慣病の種類と要因について理解する。 ・生活習慣病の一次予防、二次予防について理解する。 	
		3 生活習慣病の予防と回復	<ul style="list-style-type: none"> ・がんの種類や原因について理解する。 ・がんの一次予防と二次予防について理解する。 	
		4 がんの原因と予防	<ul style="list-style-type: none"> ・がんのおもな治療法や緩和ケアについて理解する。 	
	5	5 がんの治療と回復	<ul style="list-style-type: none"> ・がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について理解する。 	
		6 運動と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・健康と運動の関係について理解する。 ・目的に応じた健康的な運動のしかたを身につける。 	
		7 食事と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・食事と健康の関係について理解する。 ・健康的な食事のとり方について理解し、身につける。 	
	6	8 休養・睡眠と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について理解する。 ・健康と睡眠の関係及び健康によい睡眠のとり方について理解する。 	
		9 喫煙と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙者やその周囲の人に起こる害について理解する。 	
		7	10 飲酒と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙対策について、個人と社会に分けて例をあげ、説明することができる。 ・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響について理解する。 ・飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について例をあげ、説明することができる。
			11 薬物乱用と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について理解する。 ・薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策について例をあげ、説明することができる。

【課題・提出物】 ○保健ノート ○授業プリント ○課題レポート			
【1学期の評価方法】 ○定期試験 ○平常点(保健ノート、プリント、レポートなどの提出状況)			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	12 精神疾患の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について理解する。 ・現代社会における精神保健の課題をあげることができる。
	10	13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復 15 現代の感染症	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患を予防する方法について理解する。 ・精神疾患の治療について理解する。 ・感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて例をあげることができる。 ・新興感染症と再興感染症が流行する要因をそれぞれ理解する。
	11	16 感染症の予防	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の予防対策について3原則を理解し、例を挙げることができる。 ・感染症への個人と社会の対策について理解し、例をあげて説明できる。
	12	17 性感染症・エイズとその予防	<ul style="list-style-type: none"> ・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について理解する。 ・性感染症・エイズの予防とその対策について個人と社会に分けて例をあげることができる。
		18 健康に関する意思決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定・行動選択に影響を与える要因について理解する。 ・社会環境の健康への影響について理解する。 ・ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について理解する。
【課題・提出物】 ○保健ノート ○授業プリント ○課題レポート			
【2学期の評価方法】 ○定期試験 ○平常点(保健ノート、プリント、レポートなどの提出状況)			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	2 单元 安全な社会生活 1 事故の現状と発生要因	<ul style="list-style-type: none"> ・事故の実態と被害の実態について理解する。 ・事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることについて例をあげて理解する。 ・安全のために必要な個人の行動について理解する。
	2	2 安全な社会の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について例をあげて理解する。

3	3 交通における安全	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について理解する。 ・交通事故における責任を3つに分け理解する。 ・応急手当の意義について理解する。 ・傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントを身につけ、実践できる。 ・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について身につけ、実践できる。 ・実際に、日常的なけがや熱中症の応急手当の仕方を身につける。 ・心肺蘇生法の方法と手順について理解する。 ・実際に、心肺蘇生法の仕方を身につける。
	4 応急手当の意義とその基本	
	5 日常的な応急手当	
	6 心肺蘇生法	
【課題・提出物】 ○保健ノート ○授業プリント ○課題レポート		
【3学期の評価方法】 ○定期試験 ○平常点（保健ノート、プリント、レポートなどの提出状況）		

【年間の学習状況の評価方法】

100点法にて評価（試験・平常点で総合評価する）

《詳細》

(1) 各学期評価【試験における素点の80%+平常点20%にて評価】各学期、年度末とも

(2) 年度末評価【(1学期素点+2学期素点+3学期素点)÷3+年間平常点素点÷3にて評価】

(3) 平常点の算出

授業に対する評価・スモールテスト・DVD視聴、まとめレポートにて意欲・関心・態度、思考・判断、知識・理解の観点を総合評価する。

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○ペーパー試験において、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題をバランスよく出題する。 ○授業中に知識や技能を用いる場面を設定する。実習や体験（応急手当や心肺蘇生など）を行う。 	定期試験 豆テスト 観察
思考・判断・表現	○論述やレポートの作成、発表。グループでの話し合いなどを行う。	レポート 観察
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ノートやレポートによる記述 ○授業中の発言 ○自己評価 	観察

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

質問に関しては、随時教科担当者が対応する。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
音楽 I	2	1 学年音楽選択者	全クラス

教科書名 高校音楽 I Tutti+ (教育出版)

1 科目目標

<p>(1) 歌唱を通して、曲種に応じた発声や曲想を工夫し表現する技能を高める。</p> <p>(2) 器楽演奏を通して、楽器奏法や視奏力を身につけ、合奏の楽しさを味わう。</p> <p>(3) 時代や地域に基づく音楽文化について、理解を深めるとともに、主体的に鑑賞し根拠をもって自分なりに思考・判断することのできる言語表現力を養う。</p> <p>(4) 音楽の組み立て方を学び、創作の技能を身につける。</p>

2 学習計画及び評価方法

月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4 ○校歌・学生歌・応援歌の歌唱	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の特徴や歴史的背景を理解し、意欲的に活動する。 ・作品に合った発声を習得する。 ・音楽史を理解する。 ・多角的な観点から学びを深める。
	5 ○日本歌曲や西洋歌曲の歌唱 (イタリア・ドイツ歌曲)	
	6 ○日本及び世界各国の音楽的特徴・特色の理解 ○他の芸術と音楽の結びつきを学ぶ	
	7 ○合唱曲の歌唱 ○ボディーパーカッションやヴォイスアンサンブルを通したリズムの理解、グループ演奏	
【課題・提出物】ワークシート		
【1学期の評価方法】		
<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱実技テスト ・平常の取り組み (ワークシート・鑑賞の記録等) 		
月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9 ○ミュージカルの鑑賞と歌唱	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の様式を理解する。 ・曲想を工夫し、表現する。 ・正しい奏法を体得する。 ・コードを用いて弾き語りをする。 ・楽曲特有の特徴や歌唱法を理解し、表現の工夫をする。 ・様々な楽器の特性を理解する。
	○洋楽の理解と歌唱	
	10 ○ギター奏法の習得	
	○コードについての理解	
	11 ○欧米、民族の音楽の理解	
○オペラの鑑賞		
○映画音楽の歌唱		
12 ○日本の楽器やオーケストラの楽器の理解		

		○ハンドベル演奏 ○ゴスペル曲の歌唱	・他者と協調し、合奏する。 ・様式を理解し、表現する。
	【課題・提出物】 ワークシート		
	【2学期の評価方法】 ・ギター実技テスト ・平常の取り組み（ワークシート・鑑賞の記録等）		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	○日本音楽（伝統音楽・ポピュラー音楽）の理解 ○音楽の仕組み、構成要素、楽典の理解	・伝統音楽における構造を理解する。 ・作品を通して、基本的な楽典を理解する。
	2	○シャンソンの歌唱	・楽曲特有の発音、歌唱法を理解し、表現の工夫をする。
	3	○自由発表	・各自が主体的に創意工夫をし、演奏や作品発表をする。
	【課題・提出物】 ワークシート		
	【3学期の評価方法】 ・自由発表 ・平常の取り組み（ワークシート・鑑賞の記録等）		
【年間の学習状況の評価方法】 ○平常点 20%、実技点 80% ※各定期試験は実施しない。 ○学年末評価は三学期評価を算出の上、各学期の平均として行う。			

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲家及び演奏者による表現の特徴を理解し演奏や鑑賞ができる。	・歌唱 ・ワークシート提出
思考・判断・表現	曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、イメージをもって演奏や鑑賞ができる。 曲種に応じた発声や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏ができる。	・歌唱 ・器楽演奏・ ・ワークシート提出
主体的に学習に取り組む態度	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受して演奏や鑑賞ができる。	・歌唱 ・器楽演奏 ・ワークシート提出

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜の読み方、リズムや音程の取り方、楽器の奏法などの個別指導も行う。 ・休み時間なども相談を受け付ける。 ・音楽系大学や音楽教育などの進路指導にも対応する。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
美術Ⅰ	2	1学年美術選択者	全クラス

教科書名 高校生の美術 1

副教材 実習に必要な材料・用具(年度初めに用意)

1. 科目目標

制作活動を通して、造形的な表現への興味や関心を高めるとともに、具体的に表現するための技能や知識を習得し、美術的な文化活動を将来にわたって楽しむことができる資質を身につける。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	◎「ドローイング」：線描写を用いて空間を表現する	・透視図的な物の見方やハッチングなど描画を体験し、空間認識力を高める。
	5		
	6	◎「高さに挑戦」：紙工作でより高い造形物を作る	・材料や道具の基本的な性質を理解し、限られた条件で表現する柔軟性や巧緻性を養う。 ・自己分析シートを活用し、自己評価力を高める。
	7		
【課題・提出物】 ・作品 8枚			
【1学期の評価方法】 ・平常点：出席数、授業態度、作品の提出率など 20点 ・技能点：作品やアイデアスケッチから授業理解や表現力を評価 80点 (発想・構想 各5点)・(創造的技能 各5点)×8作品			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	◎「空想の生物と図鑑の制作」 ：塑像による立体表現と着彩による色彩効果の学習	・立体的な想像力を高め、空間認識力を育成する。 ・混色や重色などについて理解し、配色の効果についての思考力、表現力を高める。 ・これまでの多様な学習内容を活かして想像を膨らませ、発想力や構想力を育む。
	10		
	11		
	12	◎「ゾートロープ」：アニメーションの学習	・動画原理の学習からアニメーションへの関心を抱く。 ・動画作品を鑑賞する人に、表現者の意図が伝わる喜びを味わい、表現目的や造形文化について考える。
【課題・提出物】 ・作品(立体作品、ゾートロープ)			
【2学期の評価方法】 ・平常点：出席数、授業態度、作品の提出率など 20点 ・技能点：作品やアイデアスケッチから授業理解や表現力を評価 80点			

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	◎「光で楽しむ半立体作品」 : 切り抜いた画用紙を重ね、画面に凹凸のある表現をする	<ul style="list-style-type: none"> ・表現主題に応じた教材の活用を創意工夫し表現力を育成する。 ・画用紙の重なりによる光の効果をイメージしながら構想することにより想像力を養成する。 ・立体的に表す効果的な方法を試行錯誤し思考力や判断力を高める。 ・生徒間で表現意図や効果を共有し造形的な知的活動を楽しみ、創造力やコミュニケーション力を育成する。
	2		
	3		
【課題・提出物】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品 ・ 課題プリント(任意) 			
【3学期の評価方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平常点：出席数、授業態度、作品の提出率など 20点 ・ 技能点：作品(発想・構想 各40点)・(創造的技能 各40点) 80点 			
【年間の学習状況の評価方法】 生徒の状況をふまえ、作品を通して総合的に評価する。			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 画材の特性を効果的に利用することができる。 ・ 各単元で習得した内容を活用、応用できる。 	表現活動の観察 作品(習作含む)
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を的確に捉え、問題解決を図ることができる。 ・ 情報を整理し、表現の為のアイデアを練ることができる。 	資料プリント等での スケッチ、構成 学習活動の観察
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提示された課題に興味をもち、積極性や集中力を発して表現の可能性を追求することができる。 ・ 表現方法を工夫しながら丁寧に制作できる。 ・ 表現活動を通じて、周囲の状況に配慮しながら協力して制作できる。 ・ 完成度を高めながら造形の美しさや創造の楽しさを自分なりに発見し、そのよさを味わえる。 ・ 表現体験と鑑賞活動を通して自己評価できる。 	学習活動の観察 発言

4. 学習サポート(事前・事後学習等について)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の状況や必要に応じて、準備物や予習のための資料プリントを配布する。 ・ 課外で「放課後アートタイム」を設け、生徒が主体的に学習補完できるようにする。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
書道 I	2	1 学年書道選択者	全クラス

教科書名 書 I (光村図書)

1 科目目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広くかかわる資質・能力を次のとおり育成する。

- (1)書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付ける。
- (2)書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫し、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉える。
- (3)主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	書写から書道へ	<ul style="list-style-type: none"> ・書写と書道の学習の違いを確認する。 ・芸術科書道への関心・意欲を高め、書に対する感性を豊かにし、書に親しむ情操を養う。 ・用具用材の扱い方を学ぶ。 ・基本点画の用筆・運筆を身に付ける。 ・古典と現代の書を学び、それぞれの書の特徴を捉え臨書する。
	5	漢字の変遷と様々な書体	
	6	文房四宝	
	7	唐の四大家に学ぶ楷書の基本 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑	
【課題・提出物】鑑賞プリント 作品提出			
【1学期の評価方法】作品提出による実技点80%、及び平常点20%			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	蘭亭序	<ul style="list-style-type: none"> ・行書の基本的特徴を学ぶ。 ・王羲之や三筆・三跡等の歴史や作品が書かれた背景を理解する。 ・蘭亭序を学び模範的な行書を臨書する。 ・風信帖に学び古典筆跡の鑑賞と理解を深める。 ・仮名の成立までの過程を理解する。 ・仮名文字の線質、書風、用筆等を理解し身
	10	風信帖 三筆・三跡	
	11	仮名の筆使い 平仮名	

	12	変体仮名 蓬莱切 継色紙 古筆を生かした創作 はがき・手紙の書き方	に付ける。 ・平仮名、変体仮名の字源を意識し書く。 ・古筆を鑑賞し美しさを味わう。 ・散らし書きの構成を学び作品を制作する。 ・正しいはがき等の書き方を身に付ける。
	【課題・提出物】鑑賞プリント 作品提出		
	【2学期の評価方法】作品提出による実技点80%、及び平常点20%		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	漢字仮名交じりの書	・用具や表現法の効果を理解する。
	2	心に響く言葉を書く	・学んだことを用いて書きたい思いを言葉にして
	3		作品として仕上げ創造力や表現力を育成する。 ・他者の作品を鑑賞し感受性を磨く。
【課題・提出物】鑑賞プリント 作品提出			
【3学期の評価方法】作品提出による実技点80%、及び平常点20%			
【年間の学習状況の評価方法】 実技点80%、及び平常点20% ※各定期試験は実施しない。 学年末評価は、3学期評価を算出の上、各学期の平均となる。			

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・古典に基づく基本的な点画や線質の表し方を理解し、その用筆・運筆の技法を習得できる。 ・古典作品の書家や時代背景を理解できる。 	学習活動の観察 作品を5段階評価 (完成度を重視)
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や用途の即した形式、意図に基づく表現を工夫できる。 ・他者の作品を鑑賞し表現の工夫点や自己との相違点を見つけ、作品に生かすことができる。 	授業内プリント 学習活動の観察
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・道具を適切に扱い礼儀作法を身に付けられる。 ・集中して取り組み、技術の向上に努めることができる。 ・話し合いに積極的に参加できる。 ・古典作品や生徒同士の作品に興味と関心をもって鑑賞できる。 	授業内プリント 学習活動の観察

4 学習サポート(事前・事後学習等について)

授業内・授業後に添削指導を行う。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
英語コミュニケーション I	4	1	I コース

教科書名 BIG DIPPER English Communication I (数研出版)

副教材名 BIG DIPPER English Communication I ベーシックノート (数研出版)

英単語ターゲット 1200(改) (旺文社)

Pair & Share I (リピトレ版) (いいずな書店)

大学入試 4 技能試験対応 基礎力養成コア表現トレーニング (旺文社)

1 科目目標

聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結びつけた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

具体的な学習のねらい

<聞くこと> 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用し、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。

<読むこと> 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用し、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。

<話すこと> 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用し、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。

<書くこと> 日常的な話題について、多くの支援を活用し、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	Lesson1 Have a Good Day with a Good Breakfast 朝食の大切さ、理想的な朝食	<ul style="list-style-type: none"> 英語の時制を理解する。 人の健康的な生活と福祉の促進について学習する。
	5	Lesson2 A Mascot with a Mission 町おこしのキャラクターの役割 【Pair&Share I】 Lesson1~2 【基礎力養成コア表現トレーニング】 Lesson1~8	<ul style="list-style-type: none"> 第2文型、第3文型を理解する。 不定詞の名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法と動名詞を理解する。 住み続けられるまちづくりについて学習する。

	6	Lesson3 Two kinds of Leadership サルとゴリラから見える 2 つのタイプのリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> ・受動態(be 動詞+過去分詞)を理解する。 ・関係代名詞を理解する。 ・第4文型, 第5文型を理解する。 ・リーダーシップについて学習する。
	7	Lesson4 Older Sports and Newer Sports 新旧いろいろなスポーツの歴史と魅力 【Pair&Share I】 Lesson3~6 【基礎力養成コア表現トレーニング】 Lesson9~17	
	<p>【課題・提出物】 ・ベーシックノート ・単語テスト ・小テスト</p> <p>【1学期の評価方法】 定期試験素点：80%(中間試験及び期末試験) 平常点：20%(課題提出, 単語テスト, 小テスト, 授業態度)</p>		
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	Lesson5 AI Meets the Arts 芸術の世界にまで進出する AI(人工知能)	<ul style="list-style-type: none"> ・現在分詞, 過去分詞を理解する。 ・形式主語を理解する。 ・産業と技術革新について学習する。
	10	Lesson6 What Is Happiness? 世界の人々の「幸福度」の違い 【Pair&Share I】	
	11	Lesson7~9 【基礎力養成コア表現トレーニング】 Lesson18~23 Lesson7 The Maldives: A Dream Destination? 人気の観光地が抱える問題	
	12	Lesson8 Kazu Hiro: In Pursuit of a Dream 世界的な特殊メイクアップアーティスト Kazu Hiro 【Pair&Share I】 Lesson10~13 【基礎力養成コア表現トレーニング】 Lesson24~29	

		【課題・提出物】 ・夏期休業期間中の課題 ・ベーシックノート ・単語テスト ・小テスト	
		【2学期の評価方法】 定期試験素点：80%(中間試験及び期末試験) 平常点：20%(課題提出, 単語テスト, 小テスト, 授業態度)	
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	Lesson9 From Recycle to Upcycle ゴミの再利用の新しい形「アップサイ クル」	・つなぎ表現を理解する。 ・分詞構文を理解する。 ・間接疑問文を理解する。 ・現在完了進行形(have been ~ing)を理解する。 ・持続可能なエネルギーについて学習する。
	2	Lesson10	・仮定法過去を理解する。
	3	Diversity at Japanese Companies 日本の会社における雇用の多様性 【Pair&Share I】 Lesson14~18 【基礎力養成コア表現トレーニング】 Lesson30~43	・分詞構文を理解する。 ・過去の習慣を表す助動詞(would)を理解する。 ・助動詞+be+過去分詞を理解する。 ・経済成長と雇用について考える。
		【課題・提出物】 ・冬期休業期間中の課題 ・ベーシックノート ・単語テスト ・小テスト	
		【3学期の評価方法】 定期試験素点：80%(期末試験) 平常点：20%(課題提出, 単語テスト, 小テスト, 授業態度)	
		【年間の学習状況の評価方法】 定期試験素点：80%(5回実施される定期試験素点の平均点) 平常点：20%(各学期の平常点の平均点)	

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	・授業内容を正確に理解し、日本語訳に頼らず、本文の理解ができる。 ・英単語の意味や綴りを正確に理解している。	定期試験 小テスト 単語テスト
思考・判断・表現	各単元のトピックに関して、自ら考え、自分の意見を持ち、それを自ら表現している。	授業時の様子 小テスト・課題
主体的に学習に取り組む態度	・英語に興味・関心を持ち、自ら学習に励み、積極的に英語を用いようとする。 ・ペアワークやグループワークに積極的に参加しようとしている。	授業時の様子 課題

4 学習サポート (事前・事後学習等について)

予習(本文和訳・音読)をした上で授業に臨み、授業を受けても、わからないところは担当教員に質問する。英語は日々の積み重ねが大切なので、課題やテスト等に積極的に取り組んでほしい。また、資格検定取得に挑戦し、自分の英語のスキルアップにつなげよう。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
論理・表現 I	2	1	Iコース

教科書名 Vision Quest English Logic and Expression I Standard (啓林館)

副教材名 教科書準拠ワークブック (啓林館)

Vision Quest 総合英語 (啓林館)

1. 科目目標

<p>ア. 「話すこと (やり取り)」「話すこと (発表)」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図るために必要な発信能力を育成するとともに、論理の構成や展開を考察することで、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。</p> <p>イ. 高校英語の基礎的な文法力を養う。</p>
--

2. 学習計画及び評価方法

月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	<p>Lesson 1</p> <p>I want to introduce my new friend.</p> <p>文法</p> <p>文の種類：様々な疑問文や命令文、感嘆文を適切に作り、それに応答することができる。また、単文、重文、複文の構成を理解し、まとまりのある文で表現することができる。</p>	<p>話題 紹介：初対面で行われる自然な会話や学校の習慣を紹介する表現を学習する。</p> <p>機能 応答する/理由を述べる：相手の発話に適切な応答をすることができる。また、多様な表現を用い、理由を述べることを身につける。</p> <p>表現 話す[発表]：自分やパートナーのクラブ活動を紹介する方法を学習する。</p> <p>書く：学校のルールや好きな科目について、理由や具体例などを加えて説明する方法を学習する。</p>
	<p>Lesson2</p> <p>Do you want to join our show?</p> <p>文法</p> <p>文型と動詞：5つの文型と There is の構文を理解し、文を組み立てることができる。また、注意すべき自動詞と他動詞の使い分けができる。</p>	<p>話題 学校生活：学校の文化祭に参加する留学生との会話を通して、学校生活で行われる生徒同士のやり取りの表現を学習する。</p> <p>機能 賛成・反対する/聞き直す：賛成・反対の意思を示したり、聞き取れなかったことや理解できなかったことを聞き直したりする方法を身につける。</p> <p>表現 話す[やり取り]：文化祭に行く予定について話し合う方法を身につける。</p> <p>書く：普段の生活や自分の部屋にあるものについて、具体例や情報を挙げて説明する方法を身につける。</p>
	<p>Lesson3</p> <p>I'm planning a day trip this weekend.</p> <p>文法</p> <p>時制：基本時制の構造と概念を理解し、伝えたいことを適切な時制を用いて、書いたり話したりすることができる。</p>	<p>話題 旅行・観光：旅行の計画や予定を尋ねたり伝えたりする表現を学習する。</p> <p>機能 激励する・励ます/計画する・予定する：会話の相手を激励したり、励ましたりすることができる。また、計画したり、予定したりしていることを伝え合う方法を身につける。</p> <p>表現 話す[発表]：旅行の経験について詳細に話す表現を身につける。</p> <p>書く：最近週末にしたことや予定していることについて、具体的に詳細を書いて伝える方法を身につける。</p>

7	Lesson4 Have you ever tried it before? 文法 完了形：現在・過去・未来完了形の内容を 理解し、それぞれの用法を区別することが できる。また、共に使える語句を使って、適切 に文を作ったり、表現したりすることができ る。	話題 趣味・関心：趣味や関心のあることについて、その 経験を尋ねたり、伝え合ったりする表現を学習する。 機能 経験を尋ねる／初めての経験を述べる：これまでの 経験や初めての経験について、様々な表現を用いて尋ね たり、伝えたりする方法を身につける。 表現 話す[やり取り]：スポーツや音楽の経験について伝 え合う方法を身につける。 書く：行ったことのある場所や初めて何かを経験し た時のことについて、考えや気持ち、具体例を挙げて、 伝える方法を身につける。
	Lesson5 What do you want to do after school? 文法 助動詞：助動詞のそれぞれの意味と用法を 理解し、適切に使い分けて表現することができ る。	話題 将来・進路：将来や進路について、自分の意見や考 えを伝えたり、相手に尋ねたりする表現を学習する。 機能 許可を求める・依頼する／義務・必要を表す／回想 する・自省する：会話の相手に許可を求めたり、依頼し たりすることができる。また、義務や必要性を伝えたり、 過去の事柄を回想したり、自省する方法を身につける。 表現 話す[やり取り]：将来の夢について伝え合う表現を 学習する。 書く：家のルールや小学生の頃のこと、またいつか してみたいことについて、自分の主張に情報や考え、気 持ちなどを適切な理由や根拠を加えて書いて伝える表 現を身につける。
【課題・提出物】 ・授業用ノート ・ワークブック ・小テスト		
【第1学期の評価方法】 定期試験素点：80% (中間試験及び期末試験) 平常点：20% (課題提出, 小テスト, 授業態度)		

月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9 Lesson6 Did you hear about the new shop? 文法 受動態：受動態を用いた様々な文の構造や 意味を理解し、必要に応じて使い分け、適切 に伝えることができる。	話題 日常生活：日常生活で発話される生徒同士の自然な 会話の流れを学び、自分の感情や物事を詳細に表現する 方法を学習する。 機能 原因・影響を表す／喜び・驚きを表す：様々な表現 を用いて、原因や影響について表現することができる。 また、喜びや驚きの感情を表現する方法を身につける。 表現 話す[やり取り]：自身の買い物について詳細に伝 える方法を身につける。 書く：お薦めの小説や最近驚いたことについて、情 報や考え、気持ちなどを適切に書いて伝える方法を身に つける。
	10 Lesson7 I'm happy to have you with us. 文法 不定詞：不定詞の様々な用法を学び、より 詳細な情報を伝えることができる。	話題 交流・交際：誕生日会を舞台に繰り広げられる友人 同士の自然な会話のやり取りから、感情を表す様々な表 現を学習する。 機能 感謝する／謝罪する／弁解する：感謝・謝罪・弁解 する際に頻繁に使用される表現を学び、会話の相手に感 情を適切に伝える方法を身につける。 表現 話す[やり取り]：受け取った贈り物について詳細に 伝える方法を身につける。 書く：自分の夢、高校生が日常生活で行うべき大切 なこと、日常生活でしないように気を付けていることにつ いて、自分の意見や主張などを適切な理由や根拠と共に 書いて伝える方法を身につける。

11	Lesson8 What sport do you like playing? 文法 動名詞：動名詞の様々な用法を学び、動名詞句を使用した多様な文で伝えることができる。	話題 スポーツ・健康：スポーツチームについて発話される会話からチームに誘ったり、見学を勧めたりする表現を学習する。 機能 誘う・申し出る/推薦する：相手を誘ったり、申し出たりする表現を使うことができる。また、相手に物事を適切に推薦する方法を身につける。 表現 話す[発表]：スポーツをすることの利点について発表する方法を身につける。 書く：得意なスポーツや活動、楽しみにしていることについて、情報や具体的な内容を加えて詳細に書いて説明する方法を身につける。
	Lesson9 Digital media has come a long way. 文法 分詞：名詞を修飾する用法や補語になる用法、また分詞構文や付帯状況を表す分詞を用いて表現することができる。	話題 メディア・コミュニケーション：留学生とのやり取りから、メディアを通じたコミュニケーションについて意見を述べ、情報を加えて詳しく説明する会話を学習する。 機能 描写する/判断の根拠を述べる：人や物事について情報を加えて詳しく説明することができる。また、判断の根拠を示す表現を使用して論理的に伝える方法を身につける。 表現 話す[発表]：自分自身や自身の性格について発表する方法を身につける。 書く：家族や友人と撮った写真や日本人の一般的な特徴について、具体例や詳細な情報を加えて文章を書いて伝える方法を身につける。
【課題・提出物】・夏期休業期間中の課題 ・授業用ノート ・ワークブック ・小テスト		
【第2学期の評価方法】 定期試験素点：80% (中間試験及び期末試験) 平常点：20% (課題提出, 小テスト, 授業態度)		
月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	Lesson10 That's why I decided to go back. 文法 関係詞：関係詞を用いて複文を作り、語句を限定したり補足説明を加えたりできる。また、複合関係詞を用いて譲歩の意味を表すことができる。	話題 文化・異文化理解：日本や他国の文化や習わしについて話されるやり取りから、日本特有の言葉や文化、また異文化について紹介したり、その違いについて述べたりする会話表現を学習する。 機能 定義する/言い換える/経緯を説明する：人や物事、経緯を詳細に説明したり、言い換えや要約したりする方法を身につける。 表現 話す[発表]：日本の文化や人たちについて紹介する方法を身につける。 書く：家族や友だちの紹介や今あなたに必要なもの、どんな国(市、町)に住みたいかについて、論理の展開を工夫しながら詳細に伝えたり、意見や主張の適切な理由や根拠とともに文章を書いて伝えたりする方法を身につける。
	Lesson11 Which do you prefer, cheaper beans or more expensive ones? 文法 比較：比較に関する様々な用法と表現を理解し、物事の状態を分かりやすく説明することができる。	話題 国際問題：フェアトレード(公正取引)について話される会話から、物事を提案したり、相手の発言を称賛したりする仕方を学習する。 機能 提案する/称賛する：提案する表現や称賛する表現を学び、適切な提案と受け答えを身につける。 表現 話す[やり取り]：国際問題について自分の考えを伝え合う方法を学習する。 書く：本と映画どちらに興味があるか、また最も幸せなときについて、自分の主張の理由や根拠を加えて、詳しく説明する方法を身につける。

2	Lesson12 I think it's a good idea.	<p>話題 社会問題：日本の社会問題について話されるやり取りから、自分の意見や考えを伝えたり、相手の助言を求めたりする会話を学習する。</p> <p>機能 助言を求める・助言する／願望を表す：助言や願望を表す様々な表現を学び、相手や自分の立場に応じた適切な助言を求めたり、伝えたりすることができる。また、願望を表し表現を使い自分の意志や要望を伝える方法を身につける。</p> <p>表現 話す[発表]：日本の社会問題について自分の意見を発表する方法を身につける。</p> <p>書く：タイムマシーンがあったら過去と未来どちらに行きたいか、また自分や家族に望むことについて、意見や主張の理由や根拠を具体的に示して、伝える方法を身につける。</p>
	<p>【課題・提出物】 ・冬期休業期間中の課題 ・授業用ノート ・ワークブック ・小テスト</p>	<p>【第3学期の評価方法】 定期試験素点：80% (期末試験) 平常点：20% (課題提出, 小テスト, 授業態度)</p>
	<p>【年間の学習状況の評価方法】 定期試験素点：80% (5回実施される定期試験素点の平均点) 平常点：20% (各学期の平常点の平均点)</p>	

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<p>○外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を身に付けている。</p> <p>○外国語の音声、語彙・表現、文法を、4技能（聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと）において実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。</p>	<p>左に示す観点及び内容に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階評価の評定にまとめる。</p> <p>学習に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。</p> <p>【評価対象】 (a) 授業中の活動への取り組み状況 (b) ノート・ワーク・レポート等の提出物 (c) 小テスト・定期考査等のペーパーテスト</p>
思考・判断・表現	<p>○場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりしている。</p> <p>○外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して、場面・目的・状況等に応じて、幅広い話題について外国語を話したり書いたりして、情報や考えなどの概要・詳細・意図を適切に伝え合っている。</p>	
主体的に学習に取り組む態度	<p>○外国語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。</p> <p>○外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p> <p>○他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。</p>	

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

積極的に授業に臨み、ワークブックなどを用いて復習に力を入れましょう。疑問に思うことや理解できていない文法事項はそのままにしないで必ず担当教員に質問して、理解に努めましょう。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
総合的な探究の時間	1	1 学年	全

教材名 「インターン (INTERN)」 (株)教育と探求社
 NOLTY スコラ探究プログラム「基本編」 (株) NOLTY プランナーズ

1. 科目目標

<p>学習指導要領における目標</p> <p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解する。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p>	<p>日本大学および 日本大学東北高等学校の教育目標</p> <p>『自主創造』 自主的に学び、考え、広く世界的視野を持つ新しい自分、心豊かな自分を創造すること。</p> <p>※日本大学マインド 多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力 異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。</p> <p>社会に貢献する姿勢 社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。</p>
--	---

踏まえて ↓

踏まえて ↓

本校において定める「総合的な探究の時間」の目標

探究が自律的に行なわれるような学習環境の整備に努め、他者と協働的に取り組む中で、新たな価値を見つけ、自己の生き方や社会・職業などについて考え、発展的に自己の進路実現に向かっていくような学習展開がなされることを目標とする。

相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的にはたらくようにする。

- 「総合的な探究の時間」において育てようとする資質や能力及び態度**
- 1 生徒自身が、これまでの学びを相互に関連付けながら課題を発見し、解決する能力
 - 2 自律的・主体的に学習活動に取り組むことができる資質
 - 3 他者と協働して課題に取り組む態度
 - 4 自己の生き方や社会の諸問題について考え、発展的に自身の進路実現に向かっていく態度

他教科で身に付けた資質・能力



2. 学習計画及び評価方法

学期	日	回	教材	学習内容	学習のねらい
1 学期	4/26	1	【INTERN】	オリエンテーション	ワークを通して自分の仕事に対する考えに目を向け将来へのイメージを広げる。
	5/17	2		自分の仕事意識を知る	
	5/31	3		インターンの募集を見る	インターンする企業を決め、アンケート調査を通してその企業や事業についての理解を深める。
	6/7	4		仕事を始める	
	6/14	5		調査結果を報告する	
	6/21	6		課題を確認する	企業が社会に対してどのような価値を生み出しているのか、体験的に主体的に探求する。
2 学期	9/6	7		課題に取り組む	
	9/13	8		プレゼンテーションを行う	
	9/20	9	【INTERN】	合同研修を受ける	活動を振り返り、一人ひとりが「働く」ことについて自分なりに考える。
	10/18	10		最終レポート	
【前期の評価方法】				・活動に臨む意欲と態度 ・ワークブックへの取り組み ・プレゼン資料、発表および聞く態度 ・生徒自身による自己評価	
2 学期	10/25	1	【探究プログラム】	イントロ・興味関心 1	探究とはなにか、なぜ行うかを考える。
	11/8	2		興味関心 2	身の回りのものに目を向け、疑問を見つけて、問いを立てる。
	11/15	3		興味関心 3	
	11/22	4		興味関心 4 ・課題設定 1	
	11/29	5		課題設定 2	課題を解決する道筋を立てる。
	12/13	6		情報収集 1	情報収集の方法を学ぶ。
	12/20	7		情報収集 2	情報を収集する。
3 学期	1/17	8		整理分析 1	整理・分析の方法について学ぶ。
	1/31	9		整理分析 2	実際に収集した情報を整理・分析する。
	2/7	10		まとめ表現 1	表現方法について学び、発表の準備をする。
	2/14	11		まとめ表現 2	発表し合い、疑問を気づきを得る。
	2/21	12		振り返り	探究活動を振り返り、次の課題を見つける。
【後期の評価方法】				・活動に臨む意欲と態度 ・ワークブックへの取り組み ・プレゼン資料、発表および聞く態度 ・生徒自身による自己評価	

3-(1) 評価の観点、内容及び評価方法

成果物の出来栄えなど、活動の結果だけを評価するのではなく、過程を評価する。

	評価の観点及び内容	評価方法
知識・技能	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識および技能を身に付け、課題に関する概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。	プレゼンテーションやポスター発表などの表現による評価。
思考・判断・表現	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出し、自ら問いを立て、情報を集め、整理分析して、まとめ・発表している。	討論や質疑の様子などの言語活動の記録による評価。

<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。</p>	<p>学習や活動の状況などの観察記録による評価。 論文・報告書、レポート、ノート、作品などの制作物による評価。 評価カードや学習記録などによる生徒の自己評価や相互評価。</p>
----------------------	--	--

3-(2) 評価基準 (ルーブリック)

	十分満足できる(A)	概ね満足できる(B)	努力を要する(C)
<p>知識・技能 知識・技能</p>	<p>必要な知識・技能を書籍や資料等から得て、既得の知識と関連付けて理解することができる。</p>	<p>必要な知識・技能を書籍や資料等から得て、ある程度理解することができる。</p>	<p>必要な知識・技能を書籍や資料等から得ることができない。得た知識・技能の理解ができない。</p>
<p>課題を発見する力 思考・判断</p>	<p>自分の興味・関心と社会問題を関連付けて、課題を発見することができる。</p>	<p>自分の興味・関心から、または社会問題から課題を発見することができる。</p>	<p>自分の興味・関心、社会について理解が浅く、課題を発見できない。</p>
<p>課題を解決する力 思考・判断</p>	<p>データや情報を適切に収集し、整理・分析することができる。 筋道を立て、論理的な考えを構築できる。</p>	<p>データや情報を適切に収集し、整理・分析をする努力ができる。 根拠や論理性に欠けた部分はあるが、自分なりの考えを提示できる。</p>	<p>データ・情報を適切に収集・分析することができない。 データ・情報に基づいた考えを思考することができない。</p>
<p>考えを他者に伝えることができる力 表現</p>	<p>論理的に筋道を立て、分かりやすく、工夫のある発表をすることができる。</p>	<p>論理的に筋道を立て、分かりやすく発表しようとする努力ができる。</p>	<p>発表するための準備が不十分である。</p>
<p>自律的・主体的に学習に取り組む力 主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>課題の解決に向けて自ら粘り強く取り組むことができる。</p>	<p>課題の解決に向けて意欲的に継続して取り組むことができる。</p>	<p>活動に意欲的に取り組むことができない。</p>
<p>他者と協働する力 主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>班員と目標を共有し、価値観や意見の異なる人の意見も尊重し協力して活動できる。</p>	<p>班員と協力して活動できる。</p>	<p>班員と協力する姿勢が見られない。</p>